**Hokkaido University News** 

# 北大時報

令和4年

No. 823 October 2022

リスト・ベンジャミン特任教授が来日 「北海道大学ホームカミングデー2022」を開催 北方生物圏フィールド科学センター・札幌研究林が育てたアオダモの 苗木300本を提供〜最強バットを未来に〜



#### 目 次



「北海道大学ホームカミングデー2022」を開催



令和4年度Integrated Science Program (ISP)入学式を挙行

## ■ 全学ニュース

- リスト・ベンジャミン特任教授が来日
- 「北海道大学ホームカミングデー2022」を開催
- 19 令和4年度北海道大学インターンシップを実施
- 20 令和4年度Integrated Science Program (ISP) 入学式を挙行
- 21 令和4年度北海道大学鈴木章記念賞―自然科学実験―被表彰者の決定
- 21 令和4年度小島三司奨学金受給者の決定
- 22 就職活動スタートアップセミナーを開催~令和4年度キャリア センター就職ガイダンス後期開催分がスタート~
- 23 IUCA 2022 Executive Committee Meetingに横田理事・副学長が出席
- 「国民との科学・技術対話 | 支援事業 アカデミックファンタジスタ 北方生物圏フィールド科学センター 中村誠宏 教授が札幌日大高校 の生徒を対象に講義を実施
- 25 令和4年度第5回 定例記者会見を開催
- 26 北大フロンティア基金
- 28 薬学研究院と化学反応創成研究拠点 (WPI-ICReDD) が合同シンポジウムを開催
- 29 令和4年度「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を開催
- 30 2022年度 DEMOLA HOKKAIDO 2nd Batchファイナル デモンストレーションを実施
- 31 DEMOLA GLOBAL社CEO Ville Kairamo氏が北海道大学に来学
- 31 産学・地域協働推進機構がSCSK北海道株式会社と小学生 向けプログラミング教室を開催
- 32 サステイナビリティ推進機構シンポジウム2022「世界の 食料生産現場の現状と食料安全保障」を開催

# ■ 部局ニュース

- 33 令和4年度分島亮研究奨励金授与式を挙行
- 34 動物慰霊式を挙行
- 34 医学部・歯学部合同慰霊式を挙行
- 35 医学研究院医理工学グローバルセンターが国際シンポジウム 「The 9th GCB Biomedical Science and Engineering Symposium」を開催
- 36 医学研究院医理工学グローバルセンターが第5回GCB分子医理工 学サマースクール及び第9回GCB医学物理サマースクールを開催
- 37 豪州メルボルン大学と「ケーススタディアフタヌーン:豪州・日本から のスナップショット 高齢者向け統合アライドヘルスケア」を開催
- 38 歯学研究院で「若手研究者のための研究費申請書の書き方セミナー」を開催

- グラム「Agri-Science in Japan and Singapore」を開催 41 令和4年度水産学部公開講座「海をまるごとサイエンス!」が終了

39 北海道大学病院が記者会見を実施~食塩不使用のロールパンを共同開発~

農学院・農学部とシンガポール国立大学とのサマープロ

- 42 地球環境科学研究院が令和4年度公開講座「自然との共 生 - 北海道の未来を見据えて」を実施
- 43 スラブ・ユーラシア研究センターが「知の拠点【すぐわかアカデミア。】」に参加 すぐにわかる境界地域研究~「端っこ」から国のかたちを考える~
- 44 北方生物圏フィールド科学センター・札幌研究林が育てた アオダモの苗木300本を提供~最強バットを未来に~
- 45 環境健康科学研究教育センターがマレーシア保健省の研 究者に対して研修を実施
- 46 環境健康科学研究教育センターが国際交流セミナーを開催

## ▮お知らせ

47 医療費通知事業の実施

# ■博士学位記授与

告示

# レクリエーション

58 2022年度 第52回 札幌社会人サッカーリーグに出場

# ▮ 表敬訪問

## 人事

- 61 役員新体制紹介
- 62 新任部局長等紹介
- 62 新任部課長等紹介
- 63 新任教授紹介

# ▮訃報

- 65 教授 伊達 広行 氏
- 65 助教 鈴木 志穂 氏
- 名誉教授 山崎 勇夫 氏



DEMOLA GLOBAL社CEO Ville Kairamo氏が北海道大学に来学



北海道大学病院が記者会見を実施 ~食塩不使用のロールパンを共同開発~



北方生物圏フィールド科学センター・札幌研究林が育てた アオダモの苗木300本を提供~最強バットを未来に~



環境健康科学研究教育センターがマ 保健省の研究者に対して研修を実施

表 紙:リスト・ベンジャミン特任教授が来日(関連記事1頁に記載)

裏表紙:キャンパス風景③ 北18条門横(北17条西8丁目)

# ■全学ニュース

# リスト・ベンジャミン特任教授が来日

2021年10月にノーベル化学賞を受賞した、化学反応創成研究拠点 (WPI-ICReDD) (以下「ICReDD」) のリスト・ベンジャミン特任教授 が9月20日(火)に本学を訪れ、ICReDDの教職員や学生らが迎え入れま した。



リスト特任教授とICReDD 前田 理拠点長



創成科学研究棟内1階ホールにて

9月21日(水)には学術交流会館に て、リスト特任教授のノーベル化学賞 受賞をお祝いする会が開催され、本学 関係者約130名が参加しました。お祝 いする会では、寳金清博総長からの挨 拶に続き、フォン・ゲッツェ・クレー メンス駐日ドイツ連邦共和国特命全権 大使、鈴木直道北海道知事から祝辞が 述べられました。その後、寳金総長か らリスト特任教授に、北海道大学ユニ バーシティプロフェッサーの称号 (※) の授与と記念品が贈呈されまし た。引き続き、リスト特任教授から、 ノーベル化学賞受賞に結びついた自身 の触媒研究に関する講演が行われ、未 来のテクノロジーである触媒を用い

て、すばらしい研究者が集まっている ICReDDで、世界の課題解決に貢献す るような夢の化学反応を起こしたいと 今後の展望が語られました。

(※)世界的に極めて顕著な教育研究業績 を有し、本学の教育研究の進展に寄 与すると認められる方に授与される



リスト特任教授と寳金総長



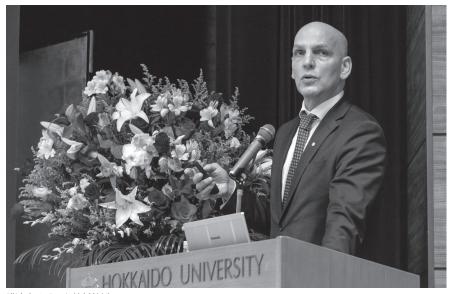
祝辞を述べるフォン・ゲッツェ・クレーメンス駐日ドイツ連邦共和国 特命全権大使



祝辞(ビデオメッセージ)を述べる鈴木北海道知事



講演の様子



講演するリスト特任教授

9月22日 (木) にはフロンティア応用 科学研究棟にて、「ノーベル化学賞を 受賞して~次世代を担う人々へのメッ セージ~」と題し、リスト特任教授に よる講演会が開催されました。本講演 は、リスト特任教授がノーベル化学賞 受賞後、初めての来学となる機会に合 わせ、主に学生や若手研究者を対象と し、ハイブリッド形式で行われました。 開会の挨拶では、前田 理ICReDD 拠点長が、拠点の概要やICReDD設立 以前からのリスト特任教授との交流に ついて紹介しました。続くリスト特任 教授の講演では、自身の幼少期のエピ ソードや、ノーベル賞受賞のきっかけ となった有機触媒について、さらに触 媒研究に関する今後の展望が語られま した。講演後のQ&Aセッションで は、会場(約90名)とオンライン参加 者(約250名)から多くの質問が寄せ

られ、リスト特任教授からの回答に は、科学者を志す人に限らず、次世代 を担う人々へ向けた「自分自身の熱意 に従うこと」という一貫したメッセー ジが込められていました。

閉会の挨拶では伊藤 肇ICReDD副 拠点長から、このような講演が若い世 代に非常に良い刺激になるとの挨拶が あり、本講演は盛会のうちに終了しま した。





講演会の様子

9月28日 (水) には、リスト特任教 授、寳金総長、増田隆夫理事・副学 長、行松泰弘理事、前田 理ICReDD拠 点長らが文部科学省を訪問し、永岡桂 子大臣や森 晃憲研究振興局長と、国際

的な頭脳循環の促進などに関する意見 交換を行いました。その後、ICReDD 発足時に北海道知事としてご支援いた だいた高橋はるみ参議院議員、内閣府 の星野剛士副大臣や上山隆大総合科学

技術・イノベーション会議議員との懇 談を行いました。

(総務企画部総務課、研究推進部研究支援課化学 反応創成研究拠点事務室、社会共創部広報課)



永岡 文部科学大臣(右) との意見交換



森 文部科学省研究振興局長(中央)との意見交換



星野 内閣府副大臣とリスト特任教授



高橋 参議院議員との一枚(左から、前田拠点長、リスト特任教授、 高橋参議院議員、寶金総長、増田理事・副学長、行松理事)



上山 内閣府総合イノベーション会議議員(リスト特任教授の向かい)との懇談

# 「北海道大学ホームカミングデー2022」を開催

9月22日(木)から25日(日)の4日間、「北海道大学ホームカミングデー2022」を開催しました。昨年は、新型コロ ナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、オンラインによるライブストリーミング配信を主体にオンデマンド配信も組み合 わせた内容にて執り行われましたが、11回目の開催となる今年のホームカミングデーは、昨年度のアンケート回答で、 コロナ禍が落ち着いた場合でもオンライン方式での開催を望む意見が複数あったことから、新型コロナウイルス感染症 対策を徹底した上で、初の試みとなる集客開催とオンラインによる動画配信も行うハイブリッド方式で開催しました。

全学行事のほか、各部局・同窓会が主催する様々な行事が行われ、全体で延べ1.527人が参加されました。久しぶり の対面開催ということもあり、参加者は各々楽しいひとときを過ごされたと思われます。

なお、次回、第12回のホームカミングデーについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況等にもよります が、引き続きハイブリット方式での開催を予定しています。

来年度の開催日については、開催日が決定次第お知らせしますので、引き続き北海道大学ホームカミングデーをよろ しくお願いします。

(社会共創部広報課卒業生・基金室)

#### 全学行事

#### 社会共創部広報課卒業生・基金室

#### 歓迎式典・記念講演会

9月24日(土) 10:00~11:55 学術交流会館講堂 集客101名、ライブ配信視聴者170名

ホームカミングデーの全学行事とし て「歓迎式典・記念講演会」を集客開 催とオンラインのハイブリッド形式で 行いました。

会場となった学術交流会館講堂で は、寳金清博総長をはじめ、出演者が 参加するなか、北海道大学交響楽団の 弦楽四重奏によるアレクサンドル・ボ ロディン作曲「弦楽四重奏曲第2番ニ 長調より第一楽章」の演奏で式典の幕 を開けました。

司会は本学経済学部の卒業生である HBC北海道放送の船越ゆかり氏が務 め、初めに寳金総長から、本学の第4 期中期目標期間における6つのビジョ ンの一つとして掲げている「繋がる・ 広がる、連携の北大」について報告が あり、2026年に迎える創基150周年に 向けて、ホームカミングデーは特別な 意味を持つものであるとの説明があり ました。

次に、杉江和男校友会エルム会長か ら、「望まれる"誰もがリーダーシッ プを持つ"人材育成を」と題し、組織 の経営で重要な「変化」「価値」「リ ーダーシップ」「ガバナンス」につい てお話を頂戴しました。

本年8月に北海道大学栄誉賞を受賞 されたご来賓の數土文夫氏からは、経 済界から見た大学教育の課題等につい てお話を頂戴しました。

また、本学の理事、監事及びホーム カミングデー担当の副学長の紹介も行 われました。

続いて、本年4月に北海道大学ディ スティングイッシュトプロフェッサー の称号を授与された人獣共通感染症国 際共同研究所の鈴木定彦所長による記 念講演会では、「結核-新型コロナウ



本学のビジョンについて報告する寶金総長



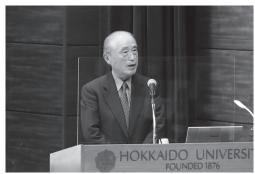
歓迎の挨拶を述べる杉江会長

イルス感染症の影に隠れた人類の脅 威-」と題し、世界並びに我が国の結 核感染状況、結核制圧に向けた取組み 等について説明されました。

その後、「学生による活動報告」と 題し、新渡戸カレッジ生の2名から活 動報告が行われ、北海道大学第111代 応援団による歓迎のステージとして、 校歌「永遠の幸」と応援歌「瓔珞みが く」の2曲が披露されました。

フィナーレは、「都ぞ弥生」の弦楽 四重奏に乗せての特別動画で締め括り ました。本動画は大学文書館所蔵の懐 かしい写真と郷愁を誘うメロディーか

ら始まり、途中から曲調がアップテン ポになると、札幌キャンパスの四季 折々の風景が映し出されるもので、会 場にお越しいただいた参加者並びにオ ンラインでの視聴者の皆様には、本学 の姿を感じて頂けたことと思います。



挨拶を述べる數土文夫氏



講演する鈴木所長



応援団による歓迎のステージ

#### 部局・同窓会主催行事

文学部・教育学部・法学部・経済学部

#### 公開講演「北海道開拓と集治監」

9月24日(土) 14:00~16:00 オンライン開催(Webex Webinars) 参加者25名

文系4部局合同企画として、同窓生・ 教職員・学生・市民を対象とした公開 講演 (オンライン) を開催しました。 今年は、今年度開催部局の法学部に よる企画とし、オンライン(Webex

Webinars) で開催し、参加者は25名 でした。

講師の月形樺戸博物館名誉館長 櫻 庭誠二氏による講演があり、有意義な 公開講演となりました。

講師 櫻庭誠二 月形樺戸博物館名誉館長 司会 小名木明宏 法学研究科長



司会を務めた小名木明宏法学研究科長



講師の月形樺戸博物館名誉館長 櫻庭誠二氏



講演はWebex Webinarsにより開催 (文系W409会議室から配信)

#### 文学部同窓会

## 文学部同窓会総会

9月24日(土) 13:00~14:00 対面・Zoomによるハイフレックス開催 参加者14名

文学部同窓会では、例年通り北大ホ ームカミングデー2022当日、9月24日 (土) 13:00~14:00に、人文・社会 科学総合教育研究棟(W棟)6番教室 にて、第23回同窓会総会を開催いたし ました。今年度も、昨年に引き続き、 対面とZoomによるハイフレックス開 催といたしました。今年度は、ホーム カミングデー2022関連の記事を掲載し た同窓会誌『楡文』第23号の発刊が遅 れてしまいましたが、同窓会ホームペ

ージでの公告やe-mailによる個別のお 知らせを行ないました。その甲斐あっ てか、例年にはあまり見られない、一 般会員の方々による総会へのご出席を たまわることができました。ごく少人 数とはいえ、役員以外の会員の方々が 7名も(!)総会にご参加くださった ことは、望外の喜びでした。コロナ禍 によりやむなく始めたハイフレックス 開催ですが、こちらの方が、遠方の会 員の方々には、気軽にご参加いただけ

る方途となったのかもしれません。更 新が滞っていた同窓会ホームページ (https://sites.google.com/view/eyubun /home?authuser=1) も、新たな担当者 をえて徐々に動き始めましたので、今 後は、様々なツールを駆使して、会員 の皆様の同窓会活動へのいっそうの積 極的ご参加を促していきたいと考えて おります。

#### 総会

9月24日(土) 16:30~17:30 文系共同講義棟(軍艦講堂) 1番教室 参加者18名

教育学部では、9月24日(土)16時 30分から17時30分に教育学部同窓会を 開催しました。

総会は佐々木孝一幹事長代行の司会 により進行され、竹田正直会長の挨 拶、横井敏郎教育学部長の挨拶の後、 宮﨑隆志議長の進行により、次の議案 について審議し、全会一致で承認され ました。

- 1 2021年度会務報告
- 2 2021年度会計報告
- 3 監查報告
- 4 2022年度事業計画
- 5 2022年度予算案
- 6 会則の改正
- 7 役員改選

なお、今年度の教育学部同窓会は、 新型コロナウイルス感染症がまだ心配 される中、久しぶりの対面開催でした が、18名の参加者があり盛況の内に終 了しました。

#### 北大法学部同窓会

#### 北大法学部同窓会2022年度定時総会

9月24日(土) 17:00~18:00 ホテルマイステイズ札幌アスペン会議室エルム 参加者10名

佐々木亮子同窓会長の開会挨拶後、 次の議案について審議し、全会一致で 承認されました。

- 1 2021年度事業報告書(案)、同収支 決算報告書(案)
- 2 2022年度事業計画(案)、同収支予算(案)
- 3 役員の一部改選 (案)

また、席上、次の事項について、報 告がなされました。

1 2021年度において、北大法学部同窓会賞が設営され、第1回の受賞者に個人の部で2名、団体の部で1サークルが選考決定され、2022年3月24日の令和3年度学士学位記授与式当日、第1回北大法学部同窓会賞の

授賞式が挙行されたこと。

2 2021年度の定時総会実施日である 2021年9月24日に発刊した「2021年 版北大法学部同窓会員名簿」の収 支顛末について

議事終了後、佐々木同窓会長の司会 進行の下、参加者による今後の同窓会 運営や同窓会活動に関わる提言・提案 等を主眼とする意見交換会が実施さ れ、活発な論議がなされました。

なお、定時総会終了後に同所で開催 予定であった法学部同窓会主催講演会 及び会員懇親会は、引続くコロナ感染 拡大状況を踏まえ、9月初旬中止する こととされました。



開会挨拶をする佐々木同窓会長



議案審議及び意見交換の様子

#### 経済学部同窓会

## 経済学部同窓会2022年総会

9月24日(土) 16:30~17:30 経済学部研究棟301 参加者19名

経済学部同窓会2022年度総会が文系 4部局合同シンポジウム終了後、経済 学部研究棟301で開催されました(オ ンラインで同時配信)。

出席者は会場に17名、オンラインで

2名の合計19名が参加し、会長代理の 岩本栄一副会長が議事進行をおこな い、昨年度の事業報告、決算報告、今 年度の事業計画、規約の変更、役員選 任(会長に板谷淳一氏(昭53卒))な どが審議され、了承されました。久しぶりの対面ということで活発な質疑応答及び、新役員の挨拶があり、1時間あまりで会は終了しました。

#### 理学研究院・理学院・理学部

## 理学部ホームカミングデー

9月24日(土) 13:30~15:30 Zoomによるオンライン開催 参加者69名

今年度の理学部ホームカミングデー は昨年同様Zoomによるオンライン形 式で開催しました。

当日は、網塚 浩理学部長と見延庄 士郎理学部同窓会理事長からの挨拶を 皮切りに、各学科から現在の研究活 動・トピック等について近況報告を行 いました。

続いて、昨年度から実施している 2030年に創立100周年を迎える理学部 の記念企画「第2回理学部創立100周年 カウントダウン講演会」を開催し、理 学部化学科OBである日本経済新聞編 集委員の太田泰彦氏を演者に迎え「地 政学で見る世界 北大理学部で学んだ

こと」と題し、在学時の学びや経験に ついて語っていただくと共に現在の取 材対象である半導体を巡る国際情勢等 について解説いただきました。講演後 の質疑応答では予定時刻を超え活発な 質問が寄せられるなど盛況の内に終了 しました。



太田泰彦氏



網塚学部長挨拶



参加者による記念撮影

#### 医学研究院・医学院・医学部

## 北海道大学医学部ホームカミングデー フラテ祭2022

9月24日(土) 13:00~15:30 Zoomによるオンライン開催(ライブ配信) 参加者82名

医学部では、同窓生をはじめとする 関係者の皆様との親睦をさらに深める 目的で「フラテ祭」を開催しており、 15回目の今年度は9月24日(土)にオ ンラインにて開催しました。

田中伸哉フラテ祭実行委員長並びに 浅香正博医学部同窓会長からの挨拶に 続き、畠山鎮次医学部長、渥美達也北 海道大学病院長による講演が行われた 後、医学部公認団体3団体(東洋医学

研究会、IFMSA北大、アンサンブル・ フラテ) による活動発表が行われ、医 学部の現状を発信しました。

続いて、学内外でご活躍されている 同窓生による特別講演が行われまし た。本学医学研究院医理工学グローバ ルセンターの白土博樹教授(医学部第 57期)から「がんの放射線治療―北大 から世界へ一」と題した講演が行わ れ、札幌禎心会病院脳疾患研究所の上

山博康所長(医学部第49期)から「"医 士道"を目ざして!」と題した講演が 行われ、盛会のうちに終了しました。

参加者からは「遠方でも参加するこ とができたため、今後もオンライン配 信を続けてほしい」「学生発表が素晴 らしかった」「長く第一線で活躍され てきた先生の熱の籠った講演内容で、 大変感銘を受けた」など、多くの感想 が寄せられました。



白土博樹氏による特別講演の様子



上山博康氏による特別講演の様子

## 大学院保健科学研究院ホームカミングデー2022

9月24日(土) 13:30~16:00 対面・Zoomによるハイブリッド開催 参加者35名

今年度は会場での実施のほかZoom によるWebでの実施のハイブリッド開 催となり、総勢35名の方々にご参加頂 きました。

矢野研究院長職務代行からの挨拶、 分野紹介、卒業生等による講演会、医 学部保健学科·医療技術短期大学部同 窓会総会が行われました。

講演会では、井野拓実氏(北海道科 学大学保健医療学部理学療法学科·助

教)に、「メガスポーツイベントにお ける理学療法士の活動~Tokyo2020の 経験から~」と題し、コロナ禍の中、 東京オリンピック・北京オリンピック にチームJAPANとしてどのように参 加したか、チームとして本学の基本理 念がまさに世界の舞台で必要であった と実感したことなど、ご自身の経験を 中心に講演いただきました。

続いて、高山 望氏(訪問看護ステ

ーション いっぽにほさんぽ・所長) に、「いのちとくらしを支える在宅医 療~起業の道のりと訪問看護の魅力! ~」と題し、起業を選択した理由や道 のり、訪問介護の重要性など、大変わ かりやすく講演頂きました。

初の対面・Zoomによるハイブリッ ド開催でしたが、盛況の内に終えるこ とができました。



矢野研究院長職務代理によるご挨拶



井野拓実氏による講演の様子



高山望氏による講演の様子

#### 歯学研究院・歯学院・歯学部

## 未来に向けた北大歯学部の歯科臨床・教育・研究 ~コロナ禍を超えて

9月24日(土) 15:00~17:00 オンライン 参加者32名

歯学研究院・歯学院・歯学部では、 「未来に向けた北大歯学部の歯科臨 床・教育・研究 ~コロナ禍を超え て」と題し、教員や学生による最新の 臨床や研究、学生生活の現状等に関す る講演会を企画しました。

オンラインで開催された講演会で は、初めに網塚憲生研究院長・学院 長・学部長が歓迎の挨拶を述べた後、

歯学研究院等の現況報告を行いまし た。

引き続き、本研究院の菅谷 勉教 授、大廣洋一教授から、歯科医療と研 究の最新トピックスや教室運営につい て講演が行われました。また、本郷裕 美助教、歯学部5年の大巻真幸さんか らは、それぞれの立場から見たコロナ 禍における歯学教育や学生生活の現状 について報告がありました。

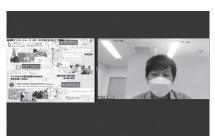
各講演は、臨床・教育・研究のいず れの分野においても、様々な創意工夫 によりコロナ禍を超えて次なる局面を 迎えていることが強く感じられる内容 であり、参加者は熱心に聞き入ってお りました。



網塚研究院長による挨拶



菅谷教授による講演の様子



大巻さんによる講演の様子

#### 薬学研究院・薬学部

## 薬学部生涯教育特別講座秋季講演会、薬学部と同窓会の近況報告会

#### 第23回生涯教育特別講座秋季講演会

9月24日(土) 14:00~16:00 対面・オンラインによるハイブリッド方式 参加者103名

薬学部生涯教育特別講座は、北大薬 学部同窓生を含む医療関係及び関連領 域の仕事に従事される方を対象に、医 療における諸問題について最新の情報 を提供することを目的として実施され ています。

令和4年9月24日(土)、薬学部臨床 薬学講義室においてオンラインとのハ イブリッドで秋季講演会が開催され、 薬局や病院などの薬剤師の方々をはじ め、薬学部学生や教員等103名が参加 しました。

はじめに北海道大学病院精神科神経 科の石川修平助教による「薬剤師が行

うエビデンス創出 (研究) の臨床的意 義―大変な思いをしてまで、研究を行 う必要が本当にあるのか?― の講演 があり、治療に対するエビデンス創出 と臨床応用の重要性を、医局に籍を置 く病院薬剤師の立場からわかりやすく 解説いただきました。続いて薬学研究 院臨床薬剤学研究室所属、臨床薬学教 育研究センターのセンター長である小 林正紀教授に「臨床現場との連携によ るTranslational Research · Reverse Translational Researchの展開」のタ イトルで、臨床現場での業務経験を踏 まえて、日常業務から生まれるクリニ

カルクエスチョンを臨床研究へと展開 していく流れについて、連携をキーワ ードに、ご自身の研究室で実施してい る臨床研究の実例を交えながらご講演 いただきました。聴講者からは多岐に わたる質問が寄せられ、先生方は一つ 一つに丁寧に回答くださいました。

「薬剤師が関与する研究の重要性と基 礎研究の展開方法について詳細を学ぶ ことができました」「臨床と基礎を行 き来する薬学研究を紹介いただき、力 をもらいました」など数多くの感想が 寄せられました。



講師の石川助教



講師の小林教授



会場の様子

#### 薬学部と同窓会の近況報告会

9月24日(土) 16:00~17:00 対面・オンラインによるハイブリッド方式 参加者40名

ホームカミングデー2022の開催にあ わせて、薬学部と同窓会の近況報告会 を行いました。本会には、同窓生を含 む40名の方が参加頂き、木原章雄薬学 部長から現在の薬学部の状況につい て、松田 彰同窓会会長から同窓会の 運営状況と同窓会誌「芳香」の現状に 関して報告しました。コロナ感染症の 影響で、3年ぶりの開催となりました が、薬学部の臨床講義室とWEBのハ イブリット開催により、例年通りの参 加者数となりました。残念ながら、同 窓生の親睦を目的とした交流会は開催 できませんでしたが、報告会に関して は参加者からも良好な評価をいただき ました。



木原薬学部長の講演



松田同窓会会長の講演

## 同窓生向け講演会及び北工会サークル展示

#### 同窓生向け講演会

9月24日(土) 13:30~15:00 対面とオンラインによるハイブリッド開催 参加者83名

工学部アカデミックラウンジ1にお いて、工学部の同窓生を対象にした講 演会を行いました。

はじめに、瀬戸口剛工学研究院長・ 工学部長が歓迎の挨拶を述べた後、工 学研究院及び工学部の現状報告を行い ました。

続いて、五十嵐敏文旭川工業高等専 門学校校長から「地図に残らない仕事

-北海道新幹線建設にともなう残土処 理- | と題した講演が行われました。



瀬戸口研究院長による挨拶

活発な質疑応答が行われるなど、参 加者からは大変好評でした。



五十嵐先生による講演

#### 北工会サークル展示

9月24日(土)8:30~15:00 工学部正面玄関ロビー

(工学部の教職員・学生等の親睦団 道、写真)を展示しました。

工学部正面玄関において、北工会 体)の公認サークルによる作品(書

ホームカミングデー来訪者の方々も、 足を止めて作品に見入っていました。

#### 情報科学研究院・情報科学院

## 北楡会・北海道大学情報系交流会

9月23日(金) 13:30~17:30 対面とオンラインによるハイブリッド開催 参加者96名

情報科学院の前身となる情報科学研 究科並びに電気・電子・情報・生体工 学系の各専攻・学科の同窓生で組織さ れる北楡会と、情報科学院の学生・教 員との交流会を、本年度はオンライン と対面のハイブリッド形式で実施しま した。プログラムは文末のとおりです。

長谷山美紀学院長並びに伊藤明男北 楡会会長からの挨拶に続き、長谷山学 院長、及び西日本電信電話株式会社 代表取締役社長 森林 正彰様よりご講 演を頂きました(その様子をオンライ ン参加の同窓生に向けてライブ配信)。



伊藤北楡会会長の挨拶

続けて、学生によるポスター研究発表 会を行いました。ポスター発表の件数 は21件、発表を行った学生数は41名で す。対面での発表に加えて、オンライ ンでご参加の同窓生と学生が交流を持 つための仮想談話室を設けたこともあ り、同窓生の皆様から活発なご質問と 学生への激励のお言葉を頂きました。

意見交換会では伊藤会長より、情報 科学院と企業との産学連携推進につい て話題提供があり、若手研究者と学生 を巻き込んだ産学連携の進めかたにつ いて活発な意見交換がされました。



長谷山情報科学研究院長の講演

#### 【プログラム】

- · 開会挨拶 情報科学院長 長谷山 美紀 教授 北楡会会長 伊藤 明男 様
- 講演

「第4期中期目標期間における情報 科学院・研究院の計画」(長谷山 美紀 教授)

「ICTで、新たな挑戦 ~西日本発グ ローバルへ~」(森林 正彰 様)

- ・研究発表会(学生によるショートプ レゼンテーションとポスター発表)
- · 意見交換会



ポスター展示の様子

#### 農学研究院・農学院・農学部

## 市民公開講座「新渡戸稲造生誕160周年特別記念講演会|

9月23日(金)13:00~14:30 対面とオンラインによるハイブリッド開催 参加者219名

本特別講演会は、明治31年発足の札 幌農林学会が開催してきた学術講演会 の中の特別講演会を継承・発展させて きたものであり121年の歴史を持ちま す。平成9年以来、市民公開・農学特 別講演会として、広く一般市民の方々 に公開しています。本年は「新渡戸稲 造生誕160周年特別記念講演会」と題 し、農学研究院・農学院・農学部、札 幌農林学会、および札幌農学同窓会に よる主催、北方生物圏フィールド科学 センター共催、北海道大学サステイナ ビリティ推進機構協力、北海道、札幌 市など26団体のご後援をいただきハイ ブリッド形式で開催しました。

横田 篤理事・副学長、西邑隆徳研 究院長による開会挨拶の後、一般財団 法人新渡戸基金理事長藤井 茂氏によ り「新渡戸稲造:その業績とSDGs」 をご講演いただきました。新渡戸稲造 の生誕と歴史的な背景の説明の後、日 本最初の社会教育の場として札幌遠友 夜学校を創立し、その人間愛に満ちた 高い見識と実践が多くの有為な人材を 輩出してきたことが紹介されました。 加えて100年以上も前からSDGs (持続 可能な開発目標)に繋がる先見性・先 進性を持って持続可能な社会構築に貢 献してきたことが解説されました。

講演会は同窓生以外にも一般市民の 方やオンライン参加者を含め200名以



西邑研究院長のご挨拶

上の方にご参加いただき、会場も満席 となりました。フロアからの質問も出 るなど、大変盛会となりました。



講演会の様子



横田理事・副学長のご挨拶

#### 獣医学部

### 獣医学部同窓会(同窓会総会、同窓生と在学生の交流フォーラム)

9月24日(土) 11:00~16:45 対面とオンライン・ライブストリーミング配信によるハイブリッド開催 参加者86名

令和4年度獣医学部同窓会関連諸会 議(評議員会、通常総会、新評議員 会、新理事会)を、11時よりオンサイ ト(獣医学部会議室および講堂)と Webex Meetingsを用いたオンライン・ ライブストリーミング配信を併用した ハイブリッドで開催しました。評議員 会では議長に菅野一敏氏(昭和52年 卒)が指名され、総会議案の確認と承 認が行われました。総会は13時より開 かれました。会議に先立ち、逝去会員

に対して黙とうを捧げました。滝口満 喜会長(昭和62年卒)の挨拶に引き続 き、議長に佐藤時則氏(昭和49年卒)、 副議長に岡松優子氏(平成16年卒)、 議事録署名人に金尚昊氏(平成23年 卒)が指名され、各議案が審議され、 評議員が選出されました。その後、新 評議員会にて理事・監事が選出され、 総会で承認されました。その後新理事 会が開催されました。

14時30分より北海道大学獣医学部同

窓会フォーラムをハイブリッド開催し ました。今年は「アラ還同窓生から現 役学生へのメッセージ」と題し、現役 入学生が今年還暦を迎える昭和60年卒 の同窓生7人から現役学生に向けて、 これまでに培った人生観や人生哲学を もとに現役学生へ叱咤激励の言葉をか けていただきました。同窓生と在学生 で活発な質疑応答が行われ、有意義な 交流会となりました。



評議員会の会議風景



フォーラム終了後の集合写真

## ホームカミングデー2022水産学部卒業生・在校生のつどい

9月24日(土) 13:30~17:00 函館キャンパス講義棟大講義室 参加者90名

今年のホームカミングデー2022は、 9月24日(土)に函館キャンパス大講 義室において対面で開催されました。

まず始めに都木靖彰学部長による本 学部練習船うしお丸代船の建造状況、 地域交流機能を統合した「水産科学未 来人材育成館」の建築が開始されたこ となどが述べられました。

次に、本学部卒業生の池谷幸樹氏 (アクア・トトぎふ館長) に「水族館 に勤めて50代で思うこと」と題してご 講演いただきました。講演内容は、製

薬会社の医療情報担当者として就職 後、水族館を運営する企業に転職し、 アクア・トトぎふのオープニングから 関わった経歴を披瀝いただきました。 現在、同水族館は水生生物の展示だけ ではなく、魚類の不思議な生態の研究 や保全に貢献していること、これらの 成果により来館者数が維持できている ことをご紹介いただきました。質疑応 答では、参加したOBから研究結果に 関する貴重な提言や、在校生からの就 職活動に対する望ましい姿勢などの質 問があり、活発な議論ができました。

講演会終了後に開催された「北水同 窓会第100回定期総会」では、会長の 横山 清氏 (㈱)アークス代表取締役社 長) による挨拶の後、同窓会の活動状 況が報告され、今後の取り組みに向け た要望などの提案について議論するこ とができました。今回参加された OGOBの皆様からは、久しぶりの対面 開催を喜ぶ声が多く寄せられ、参加者 も90名とこれまでより大幅に増え、大 変充実したものとなりました。



都木研究院長の説明に聞き入る参加者



講演をする池谷氏



池谷氏の講演に聞き入る参加者

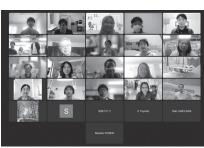
#### 環境科学院

#### 修了生による講演会(オンライン)

9月22日(木) 15:00~17:00 オンライン(Zoom) 参加者51名

環境科学院のホームカミングデーで は、修了生をお招きし、現在の仕事内 容や職場についてご紹介いただくとと もに、学生時代の経験や就職活動をふ まえて、在学生へのアドバイスを講演 いただいています。昨年に引き続き、 今年もオンライン (Zoom) での開催 となりましたが、オンライン開催の利 点の一つは、聴講者も講演者も、在住 場所に関わらず参加が可能なことで す。講演者の長谷川貴章さんは横浜か ら、Lina Mahardianiさんはインドネ シアから、山崎開平さんはイギリスか ら、そしてElijah Caldwellさんは北大 にお勤めとのことで、北大内から講演 くださいました。

講演者それぞれの、紆余曲折した在 学時や就職活動の経験、また、現職の 内容や自身の研究愛など、真剣に、時 には面白おかしくお話しいただきまし た。各講演後の質疑応答では、あまり 質問は出ませんでしたが、全講演終了 後のブレイクアウトルームで分かれた



講演者・参加者での記念撮影

グループ内では、聴講者と講演者での 直接のやりとりで盛り上がり、有意義 な交流会となりました。



ポスター

#### 国際広報メディア・観光学院

## ホームカミングデー@IMCTS 修了生meet在学生2022

9月24日(土) 14:05~18:35 対面とオンラインによるハイブリッド開催

国際広報メディア・観光学院では、 集客とオンラインによるハイフレック ス開催で、日本及び世界各地で活躍す る在学生・修了生たちをZoomで繋 ぎ、在学生からの発表と、若手教員に よる講演により、"国際広報メディ ア・観光学院の今"を紹介しました。

奥 聡副学院長の開会の挨拶の後、 HBC北海道放送のインターンシップを 経験した3名の学生から発表が行われ ました。在学生の発表では、日本でも 徐々に認知されている生理への理解、

フードロス削減へ取り組む本学の研 究、廃材アートで個性伸ばす取り組み について、「学生から見たSDGs北海 道から未来へ」と題した同局のテレビ 番組での企画、取材先選定、取材交 渉、実際の取材、動画の撮影と編集な どの制作記の報告がありました。

続いて、メディア・コミュニケーシ ョン研究院の天田顕徳准教授からは、 「"ど民俗"と観光・メディア」と題 した講演があり、貴重な経験に基づく 大変興味深い内容に参加者は皆熱心に

耳を傾けていました。

延べ人数で30名を超える修了生、在 学生、元教員等の参加者の間で、それ ぞれの発表、講演に対して活発な質疑 応答が行われ、大変盛会となりまし

また、講演後は、希望者によるハイ フレックス懇親会が 1時間ほど開催さ れました。和やかな雰囲気のうちに近 況報告を交わし、名残惜しくも終了と なりました。



挨拶をする奥副学院長



インターンシップ体験の発表をする在学生



講演する天田准教授

#### 北方生物圏フィールド科学センター

#### 植物園の縦覧見学、「北大農場」ミニツアー

#### 植物園の縦覧見学

9月24日(土)9:00~16:30 植物園 参加者2名

9月24日 (土) 当日は、ホームカミ ングデー特設窓口を設置し、卒業生等 を出迎えました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、 本学卒業生が、本企画を機会として来 園し、園内の各箇所を見学し、植物園 のふれあいや、博物館の鑑賞を楽しん で行かれました。

#### 「北大農場」ミニツアー

9月24日(土) ①14:30~15:00 ②15:30~16:00 生物生産研究農場 参加者5名

生物生産研究農場の「北大農場」ミニ ツアーは、14時30分開始と15時30分開 始の2回実施し、合計5名の参加ありま した。フィールド科学センター管理棟 の屋上にご案内し、農場全体の眺望を 楽しみながら、生物生産研究の活動内 容をご紹介しました。充実した教育環

境に賞嘆の声があがり、「実習をやっ てみたかった」などのお言葉もありま した。午前の雨も上がり、絶好の撮影 タイムを十分に楽しんでいただけた模 様でした。2回のツアーとも時間を超 過し、名残惜しみながらの散会となり ました。



屋上から展望を楽しみながら実施した 「北大農場」ミニツアー

## キャンパスツアー 一現役北大生とめぐるキャンパス今昔

9月24日(土) 13:30~15:00 ①文系コース ②理系コース ③医系コース

3年ぶりに、対面形式にてキャンパ スツアーを実施しました。主に卒業生 向けに文系コース(文・教育・法・経 済学部)、理系コース (理・工・農学 部)、医系コース(医・歯・薬・獣医 学部)の3コースを実施し、道内・道 外の8名の方にご参加いただきました。

ツアーでは、学生が各コース内の学 部や施設の現在の様子などを案内しま した。参加者からは当時の構内や学生 生活の様子について伺いました。現在 の本学の様子について参加者からの質 問に答えながら、学生自身も数十年前 の本学の姿や歴史について参加者から 学ぶことができ、共に新たな本学の一 面を知る貴重な機会となりました。

ツアー参加者の方々からは、「企画 のコンセプトが非常に良いと思いま

す。スタッフは全員に好感が持てまし た。」という声のほか、「普段入らな い場所(旧昆虫学及養蚕学教室や古河 講堂)に入ってみたいです。」など、 今後のツアーに対する期待の声も聞か れました。

北大キャンパスビジットプロジェク トでは、例年、年に数回、対面形式に て一般市民や受験生向けのキャンパス



建物の歴史や建築様式などを説明する様子

ツアーを行っていましたが、昨年度と 一昨年度は新型コロナウイルス感染症 の影響で活動を休止又はオンラインで の実施としていました。今年度は対面 形式での活動を再開したので、今後 は、今回ご参加いただいた方々からお 伺いしたお話を参考にし、より良い企 画を実施してまいります。



本学の源流であるクラーク先生を紹介する様子

#### 大学文書館

## 企画展示「絵心のある資料たち」、常設展示「北大生の群像」等を公開

9月24日(土)、25日(日)9:30~16:30

大学文書館では、「ホームカミング デー2022 に際して、9月24日(土) 及び25日(日)にわたり、通常は平日 開館日に公開している企画展示「絵心 のある資料たち」(会場:沿革展示 室、閲覧室)と、常設展示「北大生の 群像」・「札幌農学校遊戯会」・「新 渡戸稲浩と遠友夜学校 | (会場:展示 ホール)をあわせて公開しました。

企画展示「絵心のある資料たち」 は、大学文書館所蔵資料の中から選り すぐりの "絵心" あふれる資料を紹介 した特別展示です。



展示ホール

植物画には半澤 洵 (元農学部教 授)、鉱物画には福冨忠男(元工学部 教授)、水生動物画には内田 亨(元 理学部教授) · 荒井克俊 (元水産学部 教授)、製図画には有江幹男(元工学 部教授)、風景画には坂本直行(農学 実科1927年卒業)・今 裕(元医学部 教授) · 池田芳郎 (元理学部教授)、人 物画には堀 健夫(同)、墨画には中 谷宇吉郎(同)の筆による絵図を陳列 しました。

企画展示:大学文書館1階 沿革展示室・閲覧室 常設展示:大学文書館1階 展示ホール

また、高尾彰一(元農学部教授)が 尋常小学校3年生の頃に描いたクレヨ



沿革展示室

ン画(1934年作)や、犬飼哲夫(同) が長野県立松本中学校1年生の頃に描 いた水彩画(1911-1912年作)も陳列 し、色彩豊かな展示会場になっていま す。この企画展示は、来年7月31日ま で、平日開館日での公開を続けます。

参加者30名

なお、期間中、同窓生や在学生のご 家族など30名の皆さんが見学され、 「有江先生の講義が懐かしい」等の感 想が寄せられました。



高尾彰一少年が描いた鳥図(1934年)

#### ほっかいどう同窓会

オンライン講演会「アフリカの情勢と北大からできること:個人的体験も交えて| 講演者:鍋島孝子氏(北海道大学メディアコミュニケーション研究院・農学研究院食水土グローバルセンター教授)

撮影場所: クラー会館大集会室 2 youtubeによるオンデマンド配信 9月24日(十)午前0時公開

コロナウィルス感染拡大防止のた め、対面での行事の代わりとして、オ ンライン講演会を開催しました。

「アフリカの情勢と北大からできる こと:個人的体験も交えて」という 講演題目で、北海道大学メディアコミ ユニケーション研究院・農学研究院食 水土グローバルセンター (GCF) 教授 の鍋島孝子氏に講演をしていただきま した。

講演会は、校友会エルムとの共催に より、9月10日(土)にクラーク会館 大集会室において同窓会役員参加の下 開催され、その様子を録画しました。 講演内容を編集後、YouTubeのほっか いどう同窓会チャンネルにアップロー ドし、9月24日(土)に公開しました。

なお、少人数の開催の他、講演会場 であるクラーク会館大集会室において 窓の開放、ロスナイ換気の実施、聴衆 者の間隔確保等、新型コロナウィルス 感染予防処置を施した上で、講演会を 実施しました。



**講演会ポスター** 

#### 一般社団法人恵迪寮同窓会

## 文化講演会と寮歌の集い

9月24日(土) 13:00~17:30 クラーク会館大集会室1及び日本庭園「大志亭」 参加者36名

恵迪寮同窓会は北大ホームカミング デーに2013年より参加し、北大・恵迪 寮の精神と寮歌の継承を目的に「文化 講演と寮歌の集い」を行っています。

今年は、藤田正一恵迪寮同窓会副理 事長 (元北大副学長) により『「寮歌」 一歌詞に見る寮生の心情、培われる精 神、北大らしさとは一』と題し講演さ れました。

札幌農学校の精神である貴き野心の 訓えLofty Ambition、自主独立の精神 を持った自律的個の確立Be Gentlemen は各時代の先人の言や寮歌に表現さ

れ、また恵迪寮寮歌は自然への感性と 寮友との共感を特徴とし自治・自由の 精神は受け継がれてきた。現在の自治 意識の低迷、札幌農学校精神の希薄化 を憂い、警鐘を鳴らされました。

続くシンポジウムでは千原 治君は 寮歌集の校訂の必要性、村橋究理基君 は寮歌集アプリの実践を話題提供し、 谷口哲也君の進行により総合討論を行 いました。

閉会挨拶では吉沢武治代表幹事が今 日示された課題は同窓会の使命であり 同窓会をあげて取り組むと総括しまし

た。

「寮歌の集い」はクラーク会館西側 の日本庭園にある四阿「大志亭」をか こみ行いました。

東日本・西日本の同窓生や小樽商科 大学関係者など多彩な参加者を得て、 内藤春彦会長の開会挨拶で始まり、大 谷文昭寮歌部長の軽妙な司会により参 加者が自分の歌いたい寮歌を紹介し、 それを皆で唱和する形式で進められ、 15曲の寮歌を放歌高唱しました。最後 は「都ぞ弥生」。夕闇迫るなか千川浩 治副会長の閉会宣言で終えました。



藤田副理事長による基調講演



シンポジウム恵迪寮と寮歌



大志亭での寮歌の集い

## 北大ブランド紹介―北大の研究成果を活かした商品の紹介―

9月23日 (金・祝) ~25日 (日) 集客開催 参加者:北大関係者、一般観光客等

産学・地域協働推進機構は北大ブラ ンド認定商品の紹介を行いました。

インフォメーションセンターエルム の森にて認定商品を取り扱っている店 舗と商品をマップにしたポスターの展 示、並びに学内飲食店と協力し、普段 は一般流通しない北海道大学の農産物

を使用した限定メニューの提供を行い ました。

限定メニューでは、北方生物圏フィ ールド科学センター生物生産研究農場 の北大牛乳、卵や野菜、静内研究牧場 の北大短角牛、七飯淡水実験所のイト ウやサクラマスを使用した料理の提供

を行いました。

実際に生産物を食べて、認定商品を 手に取って頂くことを通じて、卒業生 や観光客、地元の皆様に本学の研究を 知っていただきました。



展示ブース



【カフェdeごはん 北大食材のランチセット】



【北大生協 七飯淡水実験場のイトウの塩焼き定食】

#### 社会共創部広報課

## 海外在住同窓生等と執行部との懇談会

9月24日(土) 14:30~15:30 オンライン 参加者22名

9月24日 (土) 14時30分~15時30分 に、オンラインにて「海外在住同窓生 等と執行部との懇談会」を開催しまし た。本イベントは、これまでに海外在 住同窓生を主対象としたイベントがホ ームカミングデーになかったことから 企画され、英語で実施されました。イ ベントには9カ国から22名の参加者が ありました。

当日は寳金清博総長の開会挨拶で開

始され、山口淳二理事・副学長からは 最近の本学に関するニュースや創基150 周年に向けた取り組みが、横田 篤理 事・副学長からは世界的に高い評価を 受けた本学のSDGsに関する取り組み や国際戦略等について説明がありまし た。続いて参加者から執行部に対し て、本学の取り組みに対する激励の言 葉や、海外同窓生同士のつながりの重 要性などについてご意見を頂戴し、広

報や北海道大学アンバサダー・パート ナーを担当する吉見 宏理事・副学長 を含めた執行部と参加者で意見交換を しました。

今後の本学の国際化の推進に向け て、本学と海外同窓生との連携は重要 であると考えています。今後も海外同 窓生と執行部間で意見交換できるイベ ントを開催する予定です。



開会挨拶する寶金総長



意見交換の様子



イベントの様子

#### 社会共創部広報課卒業生・基金室

## 遺贈・相続セミナー「今から考える相続対策」

9月24日(土) 13:30~14:30 対面とオンラインによるハイブリッド方式 参加者38名

社会共創部広報課卒業生・基金室主 催、株式会社三井住友信託銀行札幌支 店共催で、遺贈・相続セミナーを開催 いたしました。

「今から考える相続対策」と題しま して、本学理学部のOBで在られま す、三井住友信託銀行札幌支店財務コ ンサルタントの山田英樹様を講師にお 招きし、遺産相続の際に起こりうる出 来事など講師の実体験に基づくお話を 交えながら、大切な方々への財産や思 いの伝え方について、丁寧に解説をい ただきました。



山田様による講演の様子



配付資料(新規作成の遺贈パンフレット)

# 令和4年度北海道大学インターンシップを実施

9月5日(月)~9月9日(金)、本学 の学生を対象とした、令和4年度北海 道大学インターンシップを実施しまし た。

本インターンシップは、平成22年度 から、学生に就業体験の機会を与える ことにより、職業意識の育成・向上に 寄与し、併せて本学に対する理解を深 めることを目的として実施しています (令和3年度は、新型コロナウイルス 感染症感染拡大に伴う緊急事態宣言の 発令により中止)。今年度は7名の学生 を対象として、実施しました(別表参

照)。

初日に、開講式及び全体オリエン テーションを実施し、各部局担当者か ら「組織運営」「財務」「学務」「研究 推進」「施設」「国際」「社会共創」 「図書」の8つのテーマに基づき、本 学の概要説明がなされ、その後、受入 部局でそれぞれ実習を行いました。

慣れない環境ながらもメモを取りつ つ、不明な点などは職員へ進んで質問 をするなど、積極的に実習に取り組ん でいました。実習生からは、「様々な 部署の職員が相互に連携しながら、仕

事を進めている姿は、自分の想像して いた大学職員とは違い、とても印象的 でした。」など、実際に大学職員とし て働くことのイメージを実感するきっ かけとなり、有意義な実習となったよ うでした。

今後もインターンシップを通して本 学の魅力を発信し、多くの学生に就職 先の1つとして本学職員を選択しても らえるよう、取り組みを続けていきま

(総務企画部人事課)



全体オリエンテーションの様子



実習に取り組む様子



職員との交流の様子

双二如日	受入開始日-終了日	実習生		
受入部局	【実働日数】	所属	学年	
総務企画部		教育学部	3年	
財務部		文学部	3年	
		文学部	3年	
学務部	令和4年9月5日(月)- 令和4年9月9日(金) 【5日】	文学部	3年	
		農学部	2年	
研究推進部		文学部	4年	
附属図書館		法学部	3年	

(別表)

# 令和4年度Integrated Science Program (ISP) 入学式を挙行

外国人留学生を対象とした理系の学 士課程・修士課程プログラムである 「Integrated Science Program (イン テグレイテッドサイエンスプログラ ム) (ISP)」の入学式を9月29日 (木) に理学部大講堂において行い、当該プ ログラムの第6期生となる11名(5ヶ 国)が学士課程に入学しました。

ISPは国際社会で活躍できる人材の 育成を目的としており、学士課程で は、入学後半年間で理系分野を始めと する幅広い基礎知識を身につけ、その 後、理学部(物理学科・化学科・生物 科学科生物学専修分野)に移行して、 専門教育を受けることとなっています。

入学式は、ISPのプログラム長であ る山口淳二理事・副学長、理学部から 網塚 浩理学部長、徂徠和夫物理学科 長、上野貢生化学科長、高木昌興生物 科学科長の列席の下、緊張の中にも和 やかな雰囲気で執り行われました。

最初に、山口プログラム長が祝辞を 述べ、本学の学生として一歩を踏み出 したISP第6期生達に対し、ポストコロ ナの時代における新しい社会の構築に 向けて、自らの能力を十分に発揮して いくことを期待し、歓迎の意を表しま した。

続いて、ISPコーディネーターの瀬 戸 治准教授による新入生の紹介が行 われ、タイ出身のスリスック・ニピッ トポンさんが代表して宣誓を行いまし

最後は、ISP教員や先輩学生も交え て、列席者全員で記念撮影が行われま した。

入学式終了後は、同会場にて理学部 主催の新入生ガイダンスが開催され、 各学科の紹介を中心とした興味深い内 容に新入生達は熱心に聞き入っていま した。

(学務部教育推進課)



山口プログラム長(理事・副学長)による祝辞



出席者記念撮影

# 令和4年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験— 被表彰者の決定

この度、令和4年度北海道大学鈴木 章記念賞―自然科学実験―の第1学期 被表彰者3名を決定しました。

本表彰制度は、鈴木 章名誉教授の ノーベル化学賞受賞を記念して平成23 年に創設されたもので、今回を含め77 名の学生に授与されています。賞の内 容は、第1年次学生が履修する全学教

育科目「自然科学実験」において、特 【令和4年度第1学期被表彰者】 に優秀な成績を修め、かつ本学の目指 す全人教育の理念にふさわしい学生を 表彰するものです。被表彰者には、高 等教育推進機構長から賞状の授与及び 記念品が贈呈されます。

なお、表彰式は第2学期の被表彰者 と共に、令和5年3月に行います。

竹田 真翔 17組 27組 端山 恵菜 28組 宇田 理人

(学務部学生支援課)

# 令和4年度小島三司奨学金受給者の決定

この度、令和4年度小島三司奨学金 の受給者が決定しました。

本奨学金は、本学の元職員である故 小島三司氏の遺志に基づき、アルツハ イマー病を研究する大学院生に奨学金 を給付することにより、研究活動の充 実を図り、医学の進歩に寄与すること

を目的として創設された、返還義務の ない給付型の奨学金です。

今年度は、工学院、生命科学院から 各1名の推薦があり、厳正な審査を行 った結果、推薦のあった2名を本奨学 金の受給者として決定しました。受給 者には、年額60万円が給付されます。

#### 【令和4年度受給者】

工学院 山石 直也 生命科学院 木下 祥一

(学務部学生支援課)

# 就職活動スタートアップセミナーを開催 ~令和4年度キャリアセンター就職ガイダンス後期開催分がスタート~

9月27日 (火)、就職活動スタートア ップセミナーをオンラインで開催しま した。

学部・修士の全学年に向けたセミナ ーで、就職活動のスケジュール、公務 員試験の受験を考えている方に向けた 情報提供を行うとともに、北大生に向 けたキャリアハンドブックという情報 冊子の配布・閲覧の案内や、キャリア センターの使い方全般について、オン ラインで案内しました。後半では、毎

年学生から多く寄せられる質問や、実 ELMSでアーカイブ配信されています。 際に学生から事前募集した質問につい て、キャリアアドバイザーが回答する トークセッションを行いました。

当日の質疑応答では、学生が不安に 感じていることや疑問に思っているこ となど多くの質問がよせられ、時間を 30分程度延長し、活発な質疑が続けら れました。

当日は学生183名の参加があり、当 日参加できなかった学生に向けては

今後も、キャリア形成全般に関する イベントや就職活動に向けたガイダン ス、公務員志望者や留学生に向けたイ ベント、キャリアに関する個別相談な ど、様々な支援を行っていきますの で、ぜひ学生の方へご案内ください。 キャリアセンターウェブサイト https://cc.academic.hokudai.ac.jp/

(キャリアセンター)

開催日時 令和4年9月27日 (火) 17:00~18:30

場:オンライン配信及びオンデマンド配信 ※オンデマンド配信については学生はELMSで視聴可能

行:キャリアセンター 太田順也インターンシップマネージャー

トークセッション参加アドバイザー:島崎道子アドバイザー(公務員担当)、中井光野アドバイザー(留学生担当)、 濱岡小紗アドバイザー



当日のトークセッションの様子

# IUCA 2022 Executive Committee Meetingに 横田理事・副学長が出席

本学が加盟する国際コンソーシアム [IUCA (International Universities Climate Alliance) \( \sigma 2022 \) Executive Committee Meetingが、9月15日 (木) にオンラインで開催されました。本会 議は、時差を考慮し2つのタイムゾー ンに分かれて2回開催され、全体で各 加盟校代表者約80名の登録があり、本 学からは、横田 篤理事・副学長が出 席しました。

IUCAは、気候変動科学や気候変動 の影響、気候変動への適応、変動の緩 和などに関して、世界的に信頼できる

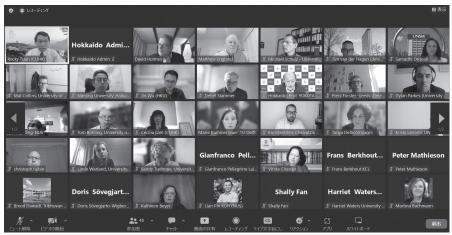
情報発信源として、研究に基づく事実 を広く提供することを目的に、オース トラリアのニューサウスウェールズ大 学を幹事校として2020年4月に発足し た国際コンソーシアムで、本学は2020 年11月に日本唯一の加盟校として参画 し、現在、22ヵ国から57の機関が加盟 しています。

本会議では、2021年から2023年にか けての活動報告及び計画の発表、加盟 校からの提案や参加者間での議論、ま た、各地域委員会からの活動報告など が行われました。

各地域委員会からの報告では、横田 理事・副学長がアジア地域委員会の代 表者として、本学がセッションをホス トし2021年10月に開催したClimate & Cities Conferenceの報告を中心に、本 学のIUCAにおける活動について発表 しました。

今後もIUCAを通して、アジア地域 での活動をはじめ、地域を超えた積極 的な交流が期待されます。

(国際部国際連携課)



Executive Committee Meetingの様子(横田理事・副学長:上から2段目、右から3番目)



活動報告をする横田理事・副学長

# 「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 北方生物圏フィールド科学センター 中村誠宏 教授が 札幌日大高校の生徒を対象に講義を実施

「森林生態系の健康診断!」 北方生物圏フィールド科学センター 中村誠宏 教授

中村教授は、森林をフィールドとし て、植物と昆虫の相互作用や、気候変 動への応答などを研究しており、苫小 牧研究林長と和歌山研究林長を兼務し ています。

8月8日(月)、苫小牧研究林に札幌 日大高校の生徒たちを招いて、体験を

交えた講義を実施しました。冒頭で、 中村教授が苫小牧研究林の森林や土壌 の特徴について解説したあと、3つの グループに分かれ、研究林で行われて いる様々な野外調査を紹介しました。 生徒たちは、日本で唯一の「林冠クレ ーン」に乗って20m以上の高さから森

林を観察し、昆虫や野ネズミの調査な どに挑戦しました。終了後のアンケー トでは、「自然と直接触れ合いなが ら、知識が得られてよかった」、「ここ でしか出来ない貴重な経験ができた などの感想が寄せられました。

時:2022年8月8日(月)13:00-15:30  $\exists$ 

場:北海道大学 苫小牧研究林 会 参加高校: 札幌日本大学高等学校

参加生徒:1-2年生 15名



日本で唯一の「林冠クレーン」で上空から 森林を観察(左から2番目が中村教授)



終了後に全員で記念撮影

#### アカデミックファンタジスタとは?

北海道大学の研究者が知の最前線を 出張講義や現場体験を通して高校生な どに伝える事業、「アカデミックファン タジスタ (Academic Fantasista)」。 内閣府が推進する「国民との科学・技 術対話」の一環として、北海道新聞社 の協力のもと2012年から継続的に実施 しています。今年度はコロナ対策を十 分に行って、札幌近郊の高校等を対象 に22名の教員が講義を実施します。

北大の研究を発信するウェブマガジ ン「リサーチタイムズ」や、Facebook でも講義レポート等を随時更新中で す。こちらもぜひご覧ください。

・リサーチタイムズ

https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/

· Facebook

@Hokkaido.univ.taiwa

(社会共創部広報課)





フェイスブック

# 令和4年度第5回 定例記者会見を開催

9月14日 (水)、本学の特色ある教育 研究活動や運営状況等を社会に向けて わかりやすく発信することを目的とし た「定例記者会見」を開催しました。

吉見 宏理事・副学長(広報・社会連 携室長) の進行のもと、理学研究院の 高橋幸弘教授が発表し、北海道教育庁 記者クラブ加盟社等から4名の参加が

ありました。発表内容は以下の通りで

(社会共創部広報課)

#### 発表事項 (発表者)

・衛星から見る台風~宇宙から地球を見守る最先端技術~ (理学研究院 教授 高橋 幸弘) ※発表資料掲載URL

https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/office/pr/press-conference/R4.html



定例記者会見の様子



発表を行う高橋教授



記者からの質問に答える高橋教授



吉見理事・副学長と高橋教授

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発 揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限 を付さない、息の長い募金活動をすることとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額(8月31日現在)

34,801件 6,007,766,928円

#### 8月のご寄附状況

法人等22社、個人394名の方々から49,654,689円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示について掲載さ せていただきます。(五十音別・敬称略)

#### 寄附者ご芳名(法人等)

医療法人 王子総合病院、株式会社JTBパブリッシング、医療法人 彰和会、医療法人渓仁会 手稲渓仁会病院、 トーアエイヨー株式会社、有限会社ニチオー、日本エヌ・ユー・エス株式会社、日本甜菜製糖株式会社、ピーエス工業株式会社、 株式会社美深振興公社、株式会社ホクリヨウ、社会保険労務士法人 北海道賃金労務研究所、本間塗装株式会社、前澤工業株式会社、 株式会社丸井足立、明治飼糧株式会社、株式会社Regalo

#### 寄附者ご芳名(個 人)

合川 .	正幸	青木 俊介	青柳 良隆	浅木 栄子	朝比奈 肇	芦立 嘉智	東 剛己	足立 正
渥海	航	阿部 啓子	阿部 雅史	阿部 元輝	阿部 結希	阿部 芳久	飯塚 幹也	五十嵐丈記
池田	肇	池田 梨子	池中 良徳	石井 啓滋	石井 哲夫	石崎 福邦	石橋 義光	石山 達雄
磯部	宏	伊藤 清高	伊藤 成輝	井上 洋子	猪股 路子	井原 博	今井 久雄	入澤 秀次
岩井	和浩	岩崎 克巳	上野 貴希	上野 正照	梅本 由佳	浦木健太郎	海老原裕磨	縁記 和也
遠藤	公憲	及川 和宏	大井手裕佳	大原 正範	大原 結	奥芝 俊一	奥芝 知郎	奥平香奈栄
奥田	英信	奥田 賢	小熊 祐子	奥村 和久	奥山 茂樹	小田原一史	小野里典明	小原 大和
加賀基	知三	加賀 幸彦	樫村 暢一	加藤 達哉	嘉藤 好彦	金川 眞行	兼古 学	金子 行宏
椛島	孝典	亀貝 一義	川上 秀明	川口 政史	川田 将也	河渕 則良	川村 有衣	川村 洋平
河本	充司	菅野 彰一	菊地 順子	喜多 司郎	鬼頭 良岳	衣川 暢子	木村 圭一	木村 祐介
草野	真暢	草間 慶子	工藤 俊哉	國原 孝	久保田玲子	倉林 和重	倉元 祥伍	高阪 真路
上月	浩	児嶋 哲文	小瀬村貴敏	小林 一郎	小林 賢人	小林 伸一	駒田 慶信	小峰 良介
小向 [	志保	齊藤 晋	齋藤 久	境 政人	坂井 洋一	坂本 大介	佐々木重幸	佐生 愛
佐藤	徹雄	佐藤 俊則	佐藤 康訓	三升畑元基	志済 聡子	七戸 俊明	柴 泰純	下沢 英二
白鳥	貴久	新保 昌人	菅原 新也	杉江 和男	杉田 恵子	杉田 弘也	菅野 直之	鈴木 貴之
鈴木 .	忠信	鈴木 望	鈴木 学	関根 猛	瀬戸山洋介	瀬名波栄潤	瀬山 邦明	高尾 英男
高木	正和	高島 雄太	高橋 彩	高橋さおり	竹内 信彦	多田久美子	田中 享	田中 智朗
田中	紀子	谷口 浩治	谷口 義恵	田畑 太	長 靖	辻 英幸	津田真寿美	土家 琢磨
鶴田	敦	出口 剛太	寺澤 睦	戸田 智弘	飛澤由紀子	富永 真之	豊田 威信	長島 郁夫
中田	裕子	長野 圭介	中村 孔亮	中谷 良弘	楢崎 圭一	成田 吉明	西海 真一	西川 和子
西田	実弘	新田 健雄	根岸 尚志	根来 清文	根本 隆志	野口 学	野村 晃子	長谷川直人

長谷 成人	長谷 由理	花田 秀一	林崎 弥生	林 達也	林 将人	日比 幸人	平岡 淳一
平塚あゆみ	平野 聡	福士 江里	福士 幸治	福永 亮朗	福永 悟郎	藤井 靖久	藤澤 裕子
藤田 敏之	藤田 隆男	船津 明	古木 誠人	星野 喜忠	細井 勇人	細川 威樹	本郷 紀沖
前田 朱実	前田 博	町田 泰一	松井 新	松原 謙一	真名瀬博人	水嶋 祐治	水谷 祐輔
湊 博之	宮坂 大介	宮嵜 直樹	宮澤 達也	宮田 信幸	宮 敏雄	宮本 大輔	向 敏信
牟田 邦宏	村上 壮一	村上 泰一	村上 慶洋	村瀬徳啓充	村武 直樹	村田 翼	村田 寛菜
茂木 透	森川 利昭	森田 博志	矢嶋 剛	柳谷 憲治	山口 健輔	山口 晃司	山口 利昭
山崎 亮	山田 澤明	山本 睦生	横内 葉子	余湖 兼右	横山  考	吉木 咲枝	吉田 幸治
吉田 広志	渡辺明日香	渡辺 研二	渡邉 幹夫	渡邊 裕			

#### 銘板の掲示 20万円以上のご寄附で新規に銘板を掲示される方

#### (個 人)

朝比奈 肇、奥芝 俊一、菊地 順子、木村 圭一、草野 真暢、倉林 和重、白鳥 貴久、鶴田 敦、中田 裕子、 根本 隆志、林 達也、藤田 敏之、藤田 隆男、本郷 紀沖

#### (法 人)

株式会社JTBパブリッシング、明治飼糧株式会社

#### 〈感謝状の贈呈〉



日本甜菜製糖株式会社 様(令和4年9月16日)



江別市立病院 様(令和4年9月20日)

#### ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。 https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html

#### ①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書 (兼・給与口座からの引落依頼書)」をダウンロードし、ご記入の上、 卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

#### ②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

#### ③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。 申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書(教職員現金用)」をダウンロードしてご記入いただくか、 卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

#### ④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当(事務局・学内電話 2017)

(社会共創部広報課)

# 薬学研究院と化学反応創成研究拠点(WPI-ICReDD)が 合同シンポジウムを開催

化学反応創成研究拠点(ICReDD/アイクレッド)では、昨年度に開催した工学研究院・情報科学研究院(4月)、医学研究院(10月)、5附置研究所(22年3月)との合同シンポジウムに続き、薬学研究院との合同シンポジウムを9月15日(木)にオンライン形式により開催しました。本シンポジウムは、ICReDDと薬学研究院の最新の研究動向を介して、研究者間の交流を深め、新たな共同研究や連携の機会とすることを目的とし、ICReDDから6名、薬学研究院から6名の講演者により行われました。

シンポジウムは、前田 理ICReDD 拠点長、市川 聡薬学研究院副研究院 長からの開会挨拶に続き、3つのセッ ションに12名の講演者が登壇し、多分野に及ぶ最先端の研究発表を行いました。それぞれの講演に対し、総勢120名の様々な分野の研究者が活発な議論や質疑応答を行い、今後の分野を超えた融合的研究への可能性が期待される良い機会となりました。最後に、ICReDDの美多剛特任准教授から閉会挨拶が行われ、シンポジウムは盛会裏に終了しました。

ICReDDでは、様々な分野の研究者 との融合研究を展開するため、今後も このような形で各部局とのシンポジウ ムを開催していく予定です。

(薬学研究院・化学反応創成研究拠点 (ICReDD))



シンポジウムポスター

#### 講演一覧

#### セッション1

- 1. Hiroki Hayashi (Experimental Sciences, WPI-ICReDD/JST-ERATO)

  "Reaction simulation by quantum chemical calculations for multicomponent reactions with difluorocarbene"
- Masahiro Kojima (Synthetic and Industrial Chemistry, Fac. of Pharm. Sci.)
   "Silane- and peroxide-free hydrogen atom transfer hydrogenation using ascorbic acid and cobalt-photoredox dual catalysis"
- 3. Kosuke Higashida (Experimental Sciences, WPI-ICReDD)
  - "Design of cooperative catalysts for nucleophilic addition of O-nucleophiles toward alkynes"
- Kimiko Kuroki (Biomolecular Science, Fac. of Pharm. Sci.)
   "Structures and receptor recognition mechanism of immune inhibitory HLA-G molecules"
- Sheng Hu (Information Sciences, WPI-ICReDD)
   "Data representations for deep learning and chemistry-related applications"

#### セッション2

- 6. Mikako Ogawa (Molecular Imaging, Fac. of Pharm. Sci.) "Cancer targeted phototherapy, based on photo-chemical reaction"
- 7. Shinya Tanaka (Experimental Sciences, WPI-ICReDD)

  "Analysis of regulatory mechanism of plasticity towards cancer stemness by Hydrogels"

#### セッション3

- 8. Yuma Yamada (Molecular Design of Pharmaceutics, Fac. of Pharm. Sci.) "Validation of therapeutic strategies using mitochondrial drug delivery systems"
- Min Gao (Computational Sciences, WPI-ICReDD)
   "Importance of systematic searching for computational catalysis"
- 10. Koichi Fujiwara (Organic Chemistry for Drug Development, Fac. of Pharm. Sci.) "Design and synthesis of benzene congeners of resolvin E2 as its stable equivalents"
- 11. Nobuya Tsuji (Experimental Sciences, WPI-ICReDD)

  "Predicting highly enantioselective catalysts using tunable fragment descriptors"
- 12. Akira Katsuyama (Medicinal Chemistry, Fac. of Pharm. Sci.)

  "Stereoisomerism of chalcogen isologues of a sterically hindered benzamide"

# 令和4年度「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を開催

実験時の揮発性有害物質の吸入によ る健康被害を防ぐための設備として、 大学の実験室にはドラフトチャンバー 等の局所排気装置が設置されていま す。これらの適切な維持管理には一定 の知識・技能が必要なことから、本学 では平成26年度より局所排気装置の管 理を行う教職員を対象に、局所排気装 置の適切な利用と維持管理能力の向上 を目的とした講習会を実施しています。

コロナ禍の影響で令和元年度を最後 に、開催を見合わせておりましたが、 今年は3年ぶりに9月13日(火)から16 日(金)に、理学部、工学部の2会場 で講習会を開催し、合計9人が受講し ました。

本講習では、最初に安全衛生本部の

川上貴教教授による講義、続いて茨城 大学工学部技術部安全管理部門の金澤 浩明技術長による屋内フードおよび屋 外の排風機での実技実習を行いまし

本学の講習では、厚生労働省の示す 「局所排気装置の定期自主検査指針」 に則った検査技術の習得だけでなく、 それに伴い必要となるメンテナンス方 法についても併せて学ぶことでドラフ トチャンバー等の構造の理解を深め、 性能低下時の問題の切り分けや、必要 に応じた簡単なメンテナンスができる ことを目指すという特色があります。

具体的なメンテナンス技術として は、プレフィルター清掃、湿式スクラ バーの水槽洗浄、乾式スクラバーの活 性炭交換、排風機のベルト交換、軸受 へのグリス充填などを紹介しています が、そういった経験のない受講者がほ とんどであり、各回とも熱心な質疑応 答が行われました。本講習で学んだ内 容は今後の各実験室での局所排気装置 の維持管理と学生への指導に活かされ るものと期待されます。

なお、本講習は、次年度以降も開催 する予定です。局所排気装置を使用す る研究室の教職員におかれましては、 機会を見つけて積極的にご受講いただ きますようお願いします。

(安全衛生本部)



講義の様子



実習の様子(屋内フード)



実習の様子 (排風機)

# 2022年度 DEMOLA HOKKAIDO 2nd Batch ファイナルデモンストレーションを実施

9月25日 (日)、2022年度のDEMOLA HOKKAIDO 2nd Batchの最終発表の場 であるファイナルデモンストレーショ ンを開催しました。ファイナルデモン ストレーションでは、新型コロナウ ィルス感染予防対策を行い、北海道大 学フード&メディカルイノベーション 国際拠点の会場と、オンラインとのハ イブリッド形式で実施しました。北海 道大学の学生だけではなく、早稲田大 学、立命館大学、小樽商科大学や北海 道情報大学など様々な地域の学生が41 名参加しました。

プログラムには、過去最多となる株 式会社らくらホールディングス、株式 会社オーケーエム、さくらネットワー ク・システム共同組合、株式会社上田 商会、長沼町、株式会社ソフトウェ ア・サイエンスの計6社からご参加い ただきました。

過去最多規模での開催に加え、ファ イナルデモンストレーションに合わせて フィンランドからDEMOLA GLOBAL 社のCEOを含む3名が来札したことも あり、前回にも増して多様性のある有 意義なイベントとなりました。

DEMOLAはフィンランド発の産官学 連携イノベーション創出プラットフォ ームであり、世界16ヵ国、60大学以上 が参加している国際的な企業課題解決 ネットワークです。学生と企業担当者 が一緒にチームを組み、企業のリアル な課題解決に取組むのが特徴です。

2018年から日本では初めて、北海道 大学が導入し、約4年半をかけて34社 37課題に取り組む活動を展開してまい りました。参加学生は、北海道大学を はじめ小樽商科大学、北海道情報大

学、藤女子大学、札幌市立大学など北 海道を中心とした地域の学生でした が、2020年度以降は新型コロナウィル ス感染拡大の影響もありフルオンライ ンでの開催体制を整えたことから、遠 方の学生や海外在住の学生の参加も実 現しています。

2022年度は3回に渡り開催する予定 で、現在第2回目を終え、既に10月15 日(土)にスタートする第3回目の学 生募集を実施しています。

詳細に関しましては、産学・地 域協働推進機構DEMOLA事務局 (demola@mcip.hokudai.ac.jp) までお 問い合わせください。

(産学・地域協働推進機構)





デモンストレーションする学生





交流会の様子

# DEMOLA GLOBAL社CEO Ville Kairamo氏が北海道大学に来学

9月25日(日)に北海道大学で行わ れた2022年度 DEMOLA HOKKAIDO 2nd Batchのファイナルデモンストレー ションに合わせ、DEMOLA Global社 のCEO Ville Kairamo氏、他2名がフィ ンランドから来札しました。

DEMOLA Global社はフィンランドの タンペレで設立した会社で、世界各地 のDEMOLAプログラムの運営やサポー トを行っています。DEMOLAは産官学 連携イノベーション創出プラットフォー

ムであり、世界16ヵ国、60大学以上が 参加している国際的な企業課題解決 ネットワークです。学生と企業担当者 が一緒にチームを組み、企業のリアル な課題解決に取組むのが特徴です。

2018年から日本では初めて、北海道 大学がDEMOLA Global社の協力を受 けて導入し、約4年半をかけて34社37 課題に取組む活動を展開してまいりま した。

9月26日 (月) には、2nd Batch参加

者に加え、過去にDEMOLAに参加し た学生や企業担当者が集い、北海道大 学フード&メディカルイノベーション 国際拠点にVille Kairamo氏 (CEO) ら をお迎えし、交流会を開催しました。 英語、日本語、フィンランド語で最新 の世界のトレンドなどのトピックにつ いて歓談し、フィンランドと北海道の 貴重な文化交流の場となりました。

(産学・地域協働推進機構)



DEMOLA GLOBAL社のCEO他



集合写真

# 産学・地域協働推進機構がSCSK北海道株式会社と 小学生向けプログラミング教室を開催

産学・地域協働推進機構はSCSK北 海道株式会社と協働し、小学生向けプ ログラミング教室『「野球データを調 べてみよう」プログラミング体験教室 開催~ファイターズの選手の野球デー タを調べて、野球観戦を楽しもう~』 を開催しました。プログラミング教 室は、北海道日本ハムファイターズ 《FIGHTERS CLASSIC》期間中の9

月17日(土)、18日(日)の2日間に札 幌ドームで実施されました。

参加者は、大好きな選手・気になる 選手のデータを、野球データベースか ら取り出すプログラムを作り、プログ ラミングの考え方や基礎を体験しまし た。当日は、北海道大学の学生2名、 藤女子大学の学生3名が小学生をサポ ートする役割を担当し、参加した小学

生からは「もっと学びたくなった。」 「優しく教えてもらえて楽しかった。」 など好評を得ました。産学連携の一つ の形として、学外に向けた新たな活動 の一歩となりました。

(産学・地域協働推進機構)



-トを行う藤女子大生



サポートを行う北大生



開催時の様子

# サステイナビリティ推進機構シンポジウム2022 「世界の食料生産現場の現状と食料安全保障」を開催

9月13日 (火) に、学術交流会館に て、サステイナビリティ推進機構シン ポジウム2022「世界の食料生産現場の 現状と食料安全保障 | をオンライン開 催しました。

本シンポジウムは、SDGsを指標と して大学の社会貢献度を測定する THEインパクトランキング2022にお いて、本学が総合で世界10位(国内1 位)、SDG別では、SDG2(飢餓をゼロ に)で世界1位獲得を記念して、世界 の食料問題に対してどのように貢献で きるか考えることをメインテーマに開 催しました。

シンポジウムは、新渡戸カレッジフ ェローの森 順子フリーアナウンサー の司会により進行し、最初に、寳金清 博総長の開会挨拶があった後、北海道 の上田晃弘総合政策部計画局長より来 賓挨拶をいただきました。

基調講演とディスカッション終了 後、横田 篤理事・副学長から、本学 以外からの意見を取り入れながら議論 できたことは非常に意義があり、個々 の研究者が行っている研究について、 食料問題を中心とした課題解決を議論 することで、自身の活動がどのように 課題に結びついているのかを可視化す る機会となった旨を発言しました。

最後に、閉会の挨拶として、岩渕和 則総長補佐から、本シンポジウムで議 論された世界の食料問題や様々な課題 に対し、本学がその解決に向けて研 究、取組み、人材育成を、本学ステー



開会挨拶をする寳金総長



基調講演を行う井本理事

クホルダーの皆様からの協力の下進め ていくことが述べられ、シンポジウム は終了しました。

本セミナーは、学内外から約200名 の方々の登録者を得て開催しました。 参加された皆様に感謝申し上げます。

(サステイナビリティ推進機構)



基調講演を行う日比駐日連絡事務所長



集合写真(シンポジウム登壇者等)

#### 基調講演

国際連合食糧農業機関(FAO) 日比絵里子駐日連絡事務所長

「世界の食料安全保障の現状」

国際協力機構(JICA) 井本佐智子理事

「SDGsと世界の農業の課題」

農学研究院 小林泰男特任教授

「ルーメンマイクロバイオーム完全制御によるメタン80%削減に向けた新たな家畜生産システムの実現」

農学研究院 井上 京教授

「ボリビア国日系人社会が牽引する持続的な循環型農業システム確立のための支援」

農学研究院 小林国之教授

「協働・協同による社会的課題の解決にむけた地域と大学のパートナーシップ」

#### パネルディスカッション

モデレーター 阿部 弘副理事、創成研究機構副機構長、URAステーション長

三次啓都特別顧問(国際連合食糧農業機関(FAO))

竹林 孝理事、副会長(北海道農業改良普及協会)

小林泰男特任教授 (農学研究院)

井上 京教授 (農学研究院)

# ■部局ニュース

# 令和4年度分島亮研究奨励金授与式を挙行

8月30日 (火)、理学研究院長室にお いて、「令和4年度分島亮研究奨励金 授与式」が執り行われました。

本奨励金は、分島 哲様・分島敦子 様が、令和3年5月にご逝去されたご子 息分島 亮様 (元北海道大学大学院理 学研究院准教授) の意志を引き継ぎ、

基礎研究を行う若手ポスドクの支援を 目的にご寄附されたことを契機に、理 学研究院において若手ポスドクの研究 を支援しようとする趣旨で創設された ものです。

授与式では、関係者列席のもと、網 塚 浩理学研究院長から採択者3名に

証状が授与され、本奨励金の趣旨と今 後の研究活動に対する期待と激励の言 葉が述べられました。

(理学研究院)



採択者との記念撮影(左から棚田学術研究員、金川事務部長、 網塚理学研究院長、利嶋研究員、竹田博士研究員)



網塚 浩理学研究院長の挨拶

# 動物慰霊式を挙行

医学研究院附属動物実験施設では、 9月15日(木)、医学部学友会館「フラテ」ホールにて令和4年度動物慰霊式を、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら執り行いました。

本慰霊式は、医学並びに生命医科学 の教育研究のために多数の動物の尊い 生命が犠牲になっていることを厳粛に 受け止め、動物の霊を追悼するととも に、生命の尊厳と倫理について啓発す ることを目的に実施しているもので、 教職員、学生等が参列しました。

はじめに渡邉雅彦施設長から追悼の 辞を述べた後、畠山鎮次研究院長の挨 拶、参列者全員による黙祷・献花を行 いました。最後に渡邉施設長から、最 近の動物愛護管理法の改正についての 情報提供及び適正な動物実験の実施に ついて、一層の理解と協力を願う旨の 挨拶があり、厳粛のうちに慰霊式を終 了しました。

(医学院・医学研究院・医学部)



追悼の辞を述べる渡邉施設長



畠山研究院長による挨拶



参列者による献花

# 医学部・歯学部合同慰霊式を挙行

医学部及び歯学部では、9月29日 (木)に、学術交流会館講堂において、この1年間に系統解剖、病理解剖及び法医解剖のため、本学に尊い御遺体を捧げられ、その御遺体を通して病因・病態の究明に、あるいは人体構造機能の理解に、貴重な御教示を遺された416名の御霊の御冥福をお祈りするため、慰霊式を執り行いました。

今年度の慰霊式は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を取りながら行われ、御遺族、寳金清博総長、畠山鎮次医学部長、網塚憲生歯学部長、矢野理香保健科学研究院長職務代行、渥美達也病院長、学外関係者、教職員、学生等約48名が参列しました。

式は解剖体御芳名奉読の後、参列者 全員による黙祷を行い、次いで、畠山 医学部長及び網塚歯学部長から、御霊 の御意志に報いるためにも一層の教 育・研究・診療の発展に努めたい旨の 追悼の辞がありました。その後、参列 者による献花を行い、最後に網塚歯学 部長から謝辞があり、慰霊式は厳粛の



追悼の辞を述べる畠山医学部長



献花をする寳金総長

うちに終了しました。

(医学院・医学研究院・医学部、 歯学院・歯学研究院・歯学部)



追悼の辞を述べる網塚歯学部長



謝辞を述べる網塚歯学部長及び畠山医学部長

# 医学研究院医理工学グローバルセンターが国際シンポジウム「The 9th GCB Biomedical Science and Engineering Symposium | を開催

医学研究院医理工学グローバルセン ターは、8月20日 (土)・21日 (日) に スタンフォード大学放射線腫瘍学科と 合同で第9回GCB国際シンポジウム

(The 9th GCB Biomedical Science and Engineering Symposium) を開催しま した。9回目を迎えた今年度は、昨年 度のオンライン開催から進化させ、感 染対策を講じた上で医学部百年記念館 をオンサイトの会場とし、オンライン を併用したハイブリット形式により実 施しました。国内外からトップクラス の研究者が集結し、医理工学分野にお ける最先端の研究発表及びディスカッ ションが二日間にわたって繰り広げら れました。

本シンポジウムはスタンフォード大 学のQuynh-Thu Le教授による開会の 挨拶で幕を開け、一日目は医学物理学 及び放射線治療学、二日目は放射線生 物学・画像診断学の4つのセッション

で構成されました。会場にて講演を行 ったのは本学の研究者のほか、本セン ターの客員研究員でもある京都大学の 南ジンミン准教授、更に、今回は3年 ぶりに海外からの招へいが実現し、 トルコからボアズィチ大学のBurcin Unlu教授、米国からは、スタンフォ ード大学のGreg Zaharchuk教授、基 調講演を行ったデューク大学のPaul Sperduto客員教授の3名が来日され、 講演を行うのみならず、コロナ後の国 際連携の再起に向けての関係構築も醸 成される大変貴重な機会となりました。 また、スタンフォード大学のXuejun Gu准教授、タイチュラロンコン大学 のAnussara Prayongrat講師、米国カ リフォルニア大学サンフランシスコ校 のMary Helen Barcellos-Hoff教授がリ モートで講演を行ったほか、環境科学 技術研究所の島田義也理事長、量子科 学技術研究開発機構の飯塚大輔主任研

究員を含む多彩なディスカッサントが リモートもしくは現地で登壇し、活発 な議論が交わされました。最後に、本 センター副センター長の久下裕司教授 による閉会の挨拶があり、全ての登壇 者と参加者への感謝が述べられ、盛会 の内に終了しました。

当日は、本学関係者のみならず、現 地には延べ81名、オンラインでは40か 国を超える国々から200名以上が聴講 しました。時差等の都合により、当日 聴講ができない参加登録者も多くいる ことから、当日の収録映像は後日オン デマンド配信を行いました。本センタ ーでは今後もスタンフォード大学を始 めとする世界トップクラスの研究者グ ループとの連携を更に強化し、国際性 を担保した研究開発と人材育成を行っ てまいります。

(医学研究院)



会場の様子



Sperduto教授の講演



ディスカッションの様子



海外招へい者と本センター教員

# 医学研究院医理工学グローバルセンターが第5回GCB分子医理工学 サマースクール及び第9回GCB医学物理サマースクールを開催

医学研究院医理工学グローバルセン ターは、8月22日 (月) から8月26日 (金)の5日間にわたり、スタンフォ ード大学放射線腫瘍学科と合同で第5 回GCB分子医理工学サマースクール及 び第9回GCB医学物理サマースクール を開催しました。過去2年間はオンラ イン開催を余儀なくされましたが、今 年は国内からの参加者のみ対面での参 加を可能としました。一方で、未だ日 本への新規入国が容易ではないことか ら、海外からの参加は今回もオンライ ンに限定しましたが、医理工学院の協 力のもと各講義室の設備を整え、実際 に講義室で行われている授業及び現地 で受講する参加者の様子をライブ配信 する「ハイフレックス授業」を実施し ました。

本サマースクールは、毎年多彩な講 師をお招きしています。今年は、スタ ンフォード大学から3名、トルコボア ズィチ大学、京都大学、量子科学技術

研究開発機構からそれぞれ1名の外部 講師をお招きし、本学からは、医学研 究院、工学研究院、保健科学研究院、 歯学研究院、理学研究院、北大病院、 アイソトープ総合センター、獣医学研 究院所属の教員が全編英語で講義を行 いました。医理工学サマースクール、 分子医理工学サマースクールともに、 基礎や理論、応用研究、実習、デモン ストレーションを網羅した包括的な講 義がバランスよく組み込まれ、講義形 式の授業に加えて、対面参加者には現 地での実習や施設見学、オンライン参 加者には最先端技術にふれるデモンス トレーションやバーチャル施設見学を 行い、それぞれの参加方法に応じたプ ログラムを提供するという工夫がなさ れました。さらに、サマースクール参 加者が自身の研究発表を行う時間を設 けたことにより、参加者同士の研究交 流が一層深められ、本学の学生に対し てアドバイスを行う姿も見られました。

世界各国から96名の応募があり、本 センターの教員による厳正な選考の結 果、エジプト、ルーマニア、ベネズエ ラ、メキシコ、フランス、イエメン等 の初の参加国を含む過去最多の29か国 から、医学物理サマースクールには28 名、分子医理工学サマースクールには 24名が参加しました。また、今年は2 年ぶりにHokkaido Summer Institute の科目としても同時開講し、5名の履 修登録がありました。サマースクール の最終日に実施した参加者アンケート からは、非常に有意義なイベントであ ったと好評を得るとともに、海外から オンラインで参加した方からは、対面 での参加を希望する声が多く寄せられ ました。参加者からの意見を踏まえ、 内容をさらにブラッシュアップして次 年度も本サマースクールを開催する予 定です。

(医学研究院)



スタンフォード大学Zaharchuk教授の講義



参加者集合写真



講義中の様子(ボアズィチ大学Unlu教授の講義)



オンライン参加者の様子

# 豪州メルボルン大学と「ケーススタディアフタヌーン:豪州・日本から のスナップショット 高齢者向け統合アライドヘルスケア | を開催

保健科学研究院と国際連携機構は、 研究連携強化を図っている豪州メルボ ルン大学と、9月16日(金)に「ケー ススタディアフタヌーン:豪州・日本 からのスナップショット 高齢者向け 統合アライドヘルスケア」をオンライ ンで開催しました。

本イベントは、3月に開催された両 大学による「ヘルシーエイジングに関 するバーチャルコンファレンス | の認 知症系研究者をベースに、両校共同出 資ファンドの一環で企画されたもので す。大学内外のアライドヘルスケア従 事者(医者、看護師以外の医療従事 者) の知見を持ち寄ることで高齢者医 療を包括的に考える契機になればと、 一般参加者を受け入れ、同時通訳付で 配信されました。

本イベントは保健科学研究院の澤村 大輔講師、メルボルン大学医学・歯 学・保健科学研究院のマリアンヌ・コ ールマン博士をモデレータとし、矢野 理香副理事(保健科学研究院副研究院 長、研究院長職務代行)、アリシア・

スピトル研究担当副研究院長の挨拶で 幕を開けました。

北海道、ヴィクトリア州における 「病院及び高齢者医療施設、地域社会 における高齢者医療でのアライドヘル スの役割」について、メルボルン大学 のサンドラ・イウリアーノ博士が豪州 の現状を述べ、クレア・マディソン博 士が高齢者疾患専門家として、ノッシ ュ栄養士会社のルイーズ・マレー氏が 栄養士として、ヴィクトリア州の医療 提供機関であるウェスタンヘルス医学 部門のミルラ・セールス博士が運動生 理学士として、それぞれの観点から現 場事情を共有しました。また、本学の 長谷川直哉准教授が北海道の現状と理 学療法士としての見解を、訪問看護ス テーションポット東の福島篤氏が地域 高齢者向けヘルスケアワーカーとして の現場について紹介しました。

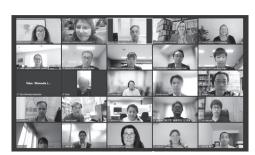
本イベントは、北海道、ヴィクトリ ア州を拠点とする医療・保健関係者の 視点から、エビデンスに基づく高齢者 ケアのベストプラクティスや事例シナ

リオを共有し、日豪の高齢者支援の枠 組みの共通点・相違点を理解するこ と、また、国際社会に貢献できる重要 なニーズや、より良い高齢者ケアの実 践に繋がる研究シーズを見つけ出すこ とを目指しており、令和5年2月に北海 道大学で開催されるハイブリッドイベ ントへ繋がるものです。

今般は、両地方の課題である遠隔地 で働く地域医療従事者への研修機会、 将来を担う双方の学部学生、大学院生 に海外の事例を紹介する機会にもなり

本イベントには、北海道医療大学、 札幌医科大学、藤女子大学、文教大 学、旭川医科大学病院、東京都立大 学、ディーキン大学、ロイヤルメルボ ルン病院のほか、国内外の民間病院、 医療クリニック、訪問介護団体、薬 局、保健所、保健省から100名以上が 参加し、多くの質問が飛び交いまし た。

(保健科学研究院、国際連携機構)



参加者集合写真



矢野北海道大学副理事・保健科学研究院副研究院長・ 研究院長職務代行



フライヤー

### 歯学研究院で「若手研究者のための研究費申請書の書き方セミナー」を開催

歯学研究院では、URAステーショ ンの協力の下、9月5日(月)に「若手研 究者のための研究費申請書の書き方セ ミナー」を開催しました。

これは、科学研究費の応募件数及び 採択率の向上のための取り組みの一環 で、事前に所属の研究者等に対して行 ったアンケートの結果、申請書の書き 方に関するセミナーの開催要望が多か ったことから、歯学研究院とURAの 共同企画として、若手研究者をメイン ターゲットとして今回開催されたもの です。

当日のセミナーでは、網塚憲生歯学 研究院長から開催の趣旨について説明

の後、既に科学研究費の採択実績のあ る歯学研究院の吉澤知彦助教及び北海 道大学病院の坂田健一郎助教から、申 請書作成にあたっての工夫及び配慮し た点について、わかりやすい図表の挿 入や公募要領に忠実に従った記載な ど、実際に採択された申請書を基に詳 細な説明がありました。

引き続き、URAステーションの佐 藤 崇URAから、「科研費申請の現 状と将来的な取組み」と題して、他大 学と比較した本学の研究費獲得の推移 や歯学研究院の学内における立ち位置 等の状況について、データに基づいた 紹介があり、併せて申請書作成のポイ

ントについてアドバイスがありまし

終了後のアンケートでは、「科研費 申請書を書く上で必要なことが整理で きた」「今回は科研費についての全体 的な対応だったので、もっと掘り下げ たものがあれば嬉しい」などの意見が 寄せられ、歯学研究院では、今後も URAステーションと緊密に連携し、 研究支援の取り組みを強化していくこ ととしています。

(歯学院・歯学研究院・歯学部)



講演の様子

# 北海道大学病院が記者会見を実施 ~食塩不使用のロールパンを共同開発~

9月12日(月)、北海道大学病院、日 糧製パン株式会社、株式会社ローソン は、共同で開発した食塩不使用(食材 に元来含まれるナトリウム値を除く) のロールパンを販売するにあたり、記 者会見を実施しました。

日本人の1日の食塩摂取量の目標量 は、成人男性7.5 g 未満、女性6.5 g 未 満 (日本人の食事摂取基準2020年版) ですが、2019年の国民健康・栄養調査 では食塩摂取量の平均値が成人男性 10.9g、成人女性9.3gと、目標量を上 回っています。

本院栄養管理部では2019年に、食塩 制限のある患者のみではなく、子ども

や大人、高齢者もおいしく食べられる 無塩パンのレシピ開発を開始しまし た。本院監修の下、日糧製パンとロー ソンの3者で1年以上試作を繰り返し、 原材料の配合や発酵時間など製造工程 を工夫することで、食塩不使用でもふ んわり美味しいロールパンを完成させ ることができました。

記者会見では、渥美達也病院長、日 糧製パンの吉田勝彦代表取締役社長、 ローソンの川畑卓上級執行役員 開発 本部長から挨拶があり、続いて、坂本 直哉栄養管理部長、日糧製パンの小西 和哉生産管理課長から、ロールパンの 概要や商品開発について説明がありま

した。

ロールパンは、9月13日(火)より 「塩を加えずに焼き上げたロールパ ン」という商品名で道内のローソンで 販売されており、28日(水)からは病 院食として患者さんにも提供していま す。本院栄養管理部のYouTubeチャ ンネル「おいしい!北大病院レシピ」 では、ロールパンを使用したおいしく て栄養バランスもとれたアレンジレシ ピを紹介していますので、ぜひご覧く ださい。

(北海道大学病院)



塩を加えずに焼き上げたロールパン



病院食として提供されるロールパン



(左から)株式会社ローソン 川畑上級執行役員 開発本部長、 熊谷聡美栄養管理部副部長、渥美病院長、坂本栄養管理部長、 日糧製パン株式会社 吉田代表取締役社長、小西生産管理課長

# 農学院・農学部とシンガポール国立大学とのサマープログラム 「Agri-Science in Japan and Singapore」を開催

農学院・農学部では、8月1日(月) ~2日(火)に、シンガポール国立 大学 (NUS) とのサマープログラム [Agri-Science in Japan and Singapore] をオンライン (Zoom) で実施しまし た。

シンガポール国立大学とは、平成30 年度から札幌とシンガポールで行う シャトルプログラム「Joint Summer Programme in Japan and Singapore を実施していました。このプログラム は、両大学で実施する約1週間の現地 開催プログラムとその準備・予習であ る1週間のE-learningが1セットにな り、計2セットをそれぞれ札幌とシン ガポールで行うように構成されたもの です。新型コロナウイルスの影響によ る中断前の令和元年に開催したプログ ラムでは、農学院・農学部の学生10名 とシンガポール国立大学の学生12名が 参加し、8月に札幌、12月にシンガポ ールでそれぞれ現地プログラムを実施 し、地理、歴史、気候などの環境条件 を元に地域に積み重ねられた文化であ り、産業である農業を再度見つめ直 し、文化的背景の異なる国同士が食料 生産、加工や流通技術などを学び、農 業や食への総合的な理解を相互に深 め、グローバル時代における農業のあ り方を考える内容となっていました。

過去2年間は新型コロナウイルスの

影響により中止となっていましたが、 今年は事前に担当者間でオンライン会 議を重ね、基本的な講義方針は変更せ ずに、日程を2日間に短縮し、かつオ ンラインとすることで、3年ぶりに開 催することができました。

講義については、農業、食産業の歴 史と文化、食の安全、食品流通、育 種、水資源事情、都市農業などそれぞ れの国の事情を反映したものに加え、 シンガポールと日本に共通する課題に ついても多くあり、両国の事情を比較 しながら、農業、食を取り巻く課題に ついての理解を深めました。

また、今回のプログラムにおいて、 シンガポール国立大学側では、受講生 の制限を設けないことから単位認定を 行っていませんでしたが、北海道大学 側では、単位認定希望学生について履 修登録をした上でレポートを課し、成 績評価を行いました。学生の参加人数 は、シンガポール国立大学が両日とも 100名前後、農学院・農学部が両日と も26名で、うち履修登録学生は22名と なりました。今年はオンラインでの開 催となりましたが、来年は4年ぶりに 対面で行えることを期待しています。

最後になりましたが、今回講義いた だきました各教員の皆様に改めて感謝 申し上げます。

<講義> (1日目)

Food Security Considerations in Singapore (Singapore's 30-by-30 Plans) [Prof CHEW Fook Tim, NUS]

Food Supply and Trade in Japan 【齋藤陽子講師】

Stomata Controland Influence on Environmental Stress Responses [Prof LAU On Sun, NUS]

History and future of agriculture in Hokkaido and Producing virus-free crop (Overview of the breeding, agronomy and crop sciences in Hokkaido agriculture)【前半:平田聡 之助教、後半:志村華子講師】 (2日目)

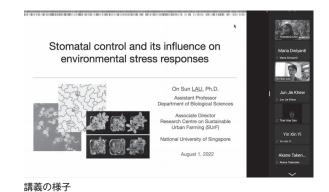
Hybridization Breeding and Heterosis: Case Studies in Plant Immune Traits [Prof CHAE Eunyoung, NUS]

How peatlands are improved in Hokkaido for better agricultural fields 【井上 京教授】

Integrated Agrotechnologies and Microbiome Applications in Urban Farming [Prof Sanjay SWARUP, NUS]

Ensuring microbiological food safety: application of predictive microbiology 【小関成樹教授】

(農学院・農学部)



Kota Kishi Yin Xin Yi Akane Takenaka Fong Yi Chung Md Imdadul Hog Farhan Adam De. Lee Wei Hao Yan ZHU (HU) Yew Li Hor

シンガポール国立大学の担当教職員(上段左端、左から3番目)と 本学の担当教員(上段左から2番目)及び参加学生

### 令和4年度水産学部公開講座「海をまるごとサイエンス! | が終了

水産学部では7月9日(土)から9月 10日(土)の期間で公開講座「海をま るごとサイエンス!」(全5回)を開 講しました。昨年度から、函館キャン パス内講義棟大講義室での対面講義及 びオンラインでの講義を同時開催(一 部アーカイブ配信)し、延べ438名の 受講があり、昨年度と比べ100名以上 増加しました。

本講座は今年で36回目の開催となり

ました。昨年度から開始したオンライ ン開催により、例年対面にて参加いた だいている道南地域の方々だけでな く、広く全国からの参加が見られまし

今年度は「水産学研究の最前線」と 題して、凍る海が温室効果ガスの吸収 に果たす役割、新種のクジラが発見さ れるまでの調査研究の紹介、また、新 たな水産業への試みとしてのサーモン

やコンブの養殖、さらにヒトや海洋動 物の腸内細菌研究の成果について全5 回の講義を行いました。

講義の最後に設けている質問コーナ ーでは、毎回熱心な質問や意見が寄せ られ、オンライン参加した高校生から も積極的に質問が寄せられました。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)

#### 各回の講演題目と講師

第1回 「凍る海のふしぎ」

北方生物圏フィールド科学センター 准教授 野村 大樹

第2回 「サーモン養殖におけるバイオテクノロジー」

水産科学研究院 准教授 藤本 貴史

第3回 「新種のクジラを見つけるまで」

水産科学研究院 教授 松石 隆

「コンブの繁殖の仕組みを探る」 第4回

水産科学研究院 教授 水田 浩之

「海洋動物の腸内細菌研究最前線 | 第5回 水産科学研究院 教授 澤辺 智雄



都木靖彰水産学部長による開講の挨拶



対面講義の受講風景

# 地球環境科学研究院が令和4年度公開講座 「自然との共生ー北海道の未来を見据えて」を実施

地球環境科学研究院は、令和4年度 公開講座「自然との共生-北海道の未 来を見据えて」を8月22日 (月) から9 月26日(月)まで全6回をオンライン にて開講し、16歳から80歳代までの81 人が受講しました。

自然は、様々な撹乱により維持され ています。撹乱も大規模なものとなる と、それらの自然との共生のためには 防災・減災という側面も考慮する必要

があります。さらに、ヒトの影響によ 上でのヒントを、6名の研究者が最新 り自然が大きく変わりつつあります。 このような自然の成り立ちと変化を知 らも非常に好評のうちに終了となりま ることは、人間活動が自然に及ぼす影 響の理解や、自然との共生への糸口を 得ることができます。

本講座では、自然との「共生」をキに修了証書が授与されました。 ーワードに、自然の成り立ちと変化、 ヒトはどのようにそれらの自然と将来 にわたり付き合っていくのかを考える

の研究成果を含めて紹介し、受講者か した。

最終回の講義終了後、全6回の講義 のうち4回以上出席した61人の受講者

(地球環境科学研究院)



谷本陽一研究院長による開講挨拶



先崎理之助教によるオンライン講義(第6回)

# スラブ・ユーラシア研究センターが「知の拠点【すぐわかアカデミア。】」に参加 すぐにわかる境界地域研究~「端っこ」から国のかたちを考える~

スラブ・ユーラシア研究センター は、共同利用・共同研究拠点として、 人文社会系の学術研究の最先端を担っ ています。国立大学共同利用・共同研 究拠点協議会では、学問の最先端の様 子を広く一般の方々や学生の方々にお 届けする、知の拠点【すぐわかアカデ ミア。】の動画配信を行っており、本 センターも協力しました。

本センターの動画「講演57:すぐに わかる境界地域研究~『端っこ』から 国のかたちを考える~」は、境界研究 ユニットが、今年度からセンターで立 ち上げたプロジェクト「生存戦略研 究 | の枠組みのなかで、日本の境界地 域を素材としてボーダースタディーズ の手法をもとに作成したものです。

中国のプレゼンスに揺れる台湾に近 い与那国、日本の排他的経済水域の約 3割を担う小笠原、コロナ禍で韓国と の交流が途絶えている対馬、そしてウ クライナ侵攻後の混迷するロシアと接

した稚内・根室からのメッセ―ジを伝 えています。

撮影は北大総合博物館2階のセンタ -の展示コーナーで行われました。日 本の様々な境界地域に関わる展示に、 ぜひみなさんも足をお運びください。

\*視聴はこちらから

https://www.kyoten.org/seminar/

(スラブ・ユーラシア研究センター)



総合博物館の展示コーナーで説明する岩下明裕教授

# 北方生物圏フィールド科学センター・札幌研究林が育てた アオダモの苗木300本を提供~最強バットを未来に~

9月17日 (土)、アオダモ資源育成の 会北海道評議会主催「バットの森づく りアオダモ資源育成の会植樹祭」が由 仁町道有林で開催されました。この植 樹祭には、北海道大学札幌研究林で育 てたアオダモの苗木300本が供出され ています。アオダモは、最高級の国産 バットに使用される樹木としてよく知 られており、イチロー選手や大谷翔平 選手がメジャーリーグで愛用したこと でも有名です。しかし、バットに使え る大きさのアオダモは、現在国内で非 常に少なくなっており、供給が困難な 状況に陥っています。この植樹祭は、 貴重な国産アオダモ資源を回復させ、 未来へ持続させる取り組みとして、平 成12年から行われているものです。札 幌研究林は、この植樹祭にこれまで総 計6,000本以上のアオダモの苗木を提 供してきました。

札幌研究林は、北大・札幌キャンパ ス内、南西側の石山通りを挟んだ場所 にあります。昨年はメインキャンパス

と札幌研究林をつなぐ跨道橋の撤去が 行われ、市民に長く親しまれた風景が 変わるということでテレビや新聞でも 報道されました。この場所に、事務 所・苗畑・見本林・温室があり、教 育・研究が数多く行われていますが、 それだけでなく、苗木生産も行われて います。アオダモもその中の樹種の一 つです。アオダモは、播種から出荷ま で約7年の管理が必要で、苗畑に種を まき、ある程度大きくなったら畑から ポットに移し育てていきます。夏場は 水の管理や施肥、雑草処理を行い、秋 には冬支度のため細く成長した幹が雪 の影響で折れたり曲がったりしないよ う地面に寝かせる作業を行います。そ して、雪解けの春を迎えると再び苗木 を起こして成長させる、という一連の 工程を繰り返し、きめ細やかに大切に 育てていきます。アオダモの苗木生産 は、本学農学部森林科学科の造林学実 習の一環としても取り組まれているも ので、播種・養苗・成長観察が、実習

の中でもされています。

今回の植樹祭には、由仁町の小学生 野球チーム、札幌市の高校野球部をは じめ、林野庁北海道森林管理局、北海 道庁、地元ボランティアなどの関係者 100名以上が参加しました。参加者 は、クワやスコップを使い植える位置 に穴を掘り、ポットから苗木を外して 植え、土を埋め戻し、地面表面には乾 燥しないよう葉っぱなどで養苗しまし た。参加した小学生は、大変だった、 楽しかったと感想を話してくれまし た。とても嬉しそうに植えていた姿が 印象的でした。

バット材として利用される十分な太 さになるまで、60~70年以上という長 い長い年月が必要となりますが(最適 な樹齢は80~90年と言われています)、 元気に育ち、将来「最強バット」とし て多くの選手に再び使われようになる ことを期待しています。

(北方生物圏フィールド科学センター)



札幌研究林のアオダモ苗畑





小学生の植樹の様子



植樹後のアオダモ造林地

# 環境健康科学研究教育センターが マレーシア保健省の研究者に対して研修を実施

9月5日(月)から16日(金)までの 2週間、マレーシア保健省医学研究所 環境衛生研究センターのセンター長は じめ4名の研究者が来日し、環境健康 科学研究教育センターにて研修を受講 しました。

マレーシアにおいて新たに出生コホ ート研究を立ち上げるにあたり、先駆 的かつアジアで最大規模の出生コホー ト研究を実施している当センターにて 研修を受けるため、来日されたもので す。

4名は当センターにおいて、出生コ

ホート研究の立ち上げから全道の産科 医療機関に協力を依頼した背景、参加 者のリクルート、追跡調査や対面調査 の実施、検体のバンキング、データベ ースによる調査データの管理、統計解 析、広報・参加者コミュニケーショ ン、将来の国際共同研究に至るまで詳 細に研修を受けられました。

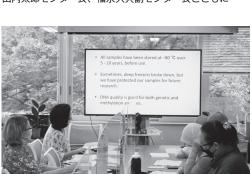
また、人獣共通感染症国際共同研究 所 (One Healthリサーチセンター) や 東北大学・東北メディカル・メガバン ク機構を視察したり、期間中に当セン ターが主催した国際交流セミナーに参 加したりするなど、精力的に活動され

当センターはWHO研究協力センタ ーとして研究教育活動を行っておりま すが、その一環としてアジアにおいて 環境化学物質曝露からの健康障害を予 防するための科学的知見を創成するコ ホート研究を支援するための活動を続 けていきます。

(環境健康科学研究教育センター)



山内太郎センター長、福永久典副センター長とともに



宮下ちひろ副センター長による講義



人獣共通感染症国際共同研究所を訪問



研修を担当した講師たちと記念撮影

# 環境健康科学研究教育センターが国際交流セミナーを開催

環境健康科学研究教育センターは、9 月14日(水)に遠友学舎において、国 際交流セミナー「Immunotoxicological Effects and Human Health Impact of Per- and Polyfluoroalkyl Substances (PFAS) | を開催しました。

本セミナーでは、イーストキャロラ イナ大学のJamie C. DeWitt教授を招 き、3つの講演を行いました。

はじめに、本センターの宮下ちひろ 特任教授より「Introduction to CEHS and brief results of PFAS in the

Hokkaido study」と題し、センターの 研究成果について紹介があり、続いて 保健科学研究院の池田敦子教授より

[Impact of pewnatal PFAS exposure on children's health: The Hokkaido Study (continued) | と題し、PFASが 子どもの健康に与える影響について講 演がされました。最後にDeWitt教授 より「Protecting public health from per- and polyfluoroalkyl substances: Focus on immunotoxicity」と題し、 有機フッ素化合物における公衆衛生上

の懸念、環境や生体内での長期残存 性、体内へ取り込む経路(曝露源)、 生体内毒性、免疫毒性の評価としてワ クチン抗体価測定の重要性に関する講 演が行われました。

各講演後には、参加者より多くの質 問がなされ、活発な議論が交わされま した。

(環境健康科学研究教育センター)



DeWitt教授による講演



講演後の集合写真

### ■お知らせ

### 医療費通知事業の実施

国家公務員共済組合法附則第14条の3第1項に基づく国家公務員共済組合連合会の共同事業の一つとして、昭和56年度から 実施している医療費の通知事業を今年も行うことになりました。

この通知事業は、組合員に対し医療費の額等を通知することにより、組合員等に健康に対する認識を深めていただき、ひ いては、短期給付事業の健全な運営に資することを目的として、特定月における支払分について通知するものです。 実施内容は次のとおりです。

#### 1. 通知の対象

組合員及びその被扶養者に係る令和4年6月診療分の診療報酬明細書(レセプト)による医療費の額等です。

なお、共済組合の直営医療機関並びに契約医療機関に係る請求分、任意継続組合員、遠隔地被扶養者及び在外組合員に係 る請求分、特定の診療部門に係る請求分は通知の対象から除外されます。

#### 2. 通知の内容

通知の内容は、受診者名、診療年月、診療日数、入院・通院・歯科・薬局の別、医療費の額及び病院名です。

#### 3. 通知票の組合員への配付

通知票の組合員への配付は、令和4年11月末頃までに各部局等の共済事務担当係から行われる予定です。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

### ■博士学位記授与

本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士98人、及び本学に学位論文を提出して、その審査、試験等に合格し た論文博士8人に対する学位記授与式を、9月26日(月)午前10時から学術交流会館講堂において新型コロナウイルス感染症 対策に配慮した上で挙行しました。

式では寳金清博総長から各研究科等の総代へ学位記が手渡され、最後は北大交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の 演奏で締めくくられました。9月の被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)



学位記授与の様子

#### 課程懂十

博士の専攻	博士の学位を授与された者	
分野の名称	氏 名	- 博 士 論 文 名 
坤1. / 沖24	張生字	チーム医療における刑事過失責任――組織的医療における個人の過失責任のあり方及び関係者 間の責任分担――
博士 (法学)	リン サンフウ	主査: 教授 城下 裕二 刑の執行猶予の量刑判断について一日台における一般情状に対する考察を踏まえて一
	林 🖾紘	主査: 教授 城下 裕二
	田中 寿臣	ニホンウナギの催熟技術の高度化に関する研究 主査: 教授 水田 浩之
博士 (水産科学)	#- E-F HO VIET KHOA	Studies on the early physiologial responses governing heat stress-inducible gene expression in the red alga <i>Neopyropia yezoensis</i> (スサビノリの高温ストレス誘導性遺伝子発現を司る初期生理応答の研究)
	Duc Nguyen	主査: 教授 細川 雅史  An integrated approach to evaluate challenges and opportunities to address water resource management issues in Can Tho City, Vietnam  (ベトナム、カントー市における水資源管理問題への取り組みのための課題と機会の評価の統
博士(環境科学)	Hong	合的アプローチ) 主査:准教授 Ram Avtar
	RAJ RAVĒĒNĀ	An environmental assessment of gully erosion susceptibility in Chambal ravines of India: Geospatial and machine learning based approach (インド・チャンバル渓谷におけるガリー侵食の起こりやすさの環境評価:地理空間情報および機械学習によるアプローチ)

博士の専攻	博士の学位を授与された者	
分野の名称	氏 名	·
	ッー ムイファ 李 梅花 ァッッン Alison	Reconstruction of temporal variation of Asian dust provenances in silt and clay fractions in Japan Sea sediments since 10 Ma based on a quantification of each source contribution using a statistical end-member decomposition of powder X-ray diffraction profiles (日本海堆積物の粒度別粉末X線回折プロファイルの統計的端成分分解に基づくアジア起源風成塵供給源別定量とその時代変化の復元)  主査: 准教授 入野 智久
	オウギョウボン王鄴凡	Changes in marine-terminating outlet glaciers in northwestern Greenland from remote sensing  (リモートセンシングを用いたグリーンランド北西部における溢流氷河の変動に関する研究)  主査:教授 杉山 慎
	はた しゃんたろう 波多 俊太郎	Evolution of Glaciar Pío XI, a calving glacier in the Southern Patagonia Icefield, under the influence of non-climatic forcing  (南パタゴニア氷原 Pío XI 氷河における気候以外の要素に影響を受けた末端位置・表面標高・流動変化)  主査:教授 杉山 慎
	*** 2=>ダ	Utilization of circulating insulin-like growth factor-l and its binding proteins as physiological indices for hatchery release and aquaculture of salmonids (増養殖業における生理学的指標としての血中インスリン様成長因子-lとその結合蛋白) 主査:教授 工藤 勲
	かわかみ ともで 河上 智也	森林管理に伴う土壌撹乱後のミミズ群集の定着と窒素動態における役割 (Colonization of earthworm community and their role in nitrogen dynamics after soil disturbance during forest management)
博士 (環境科学)	スルチャヨ イマン Nurcahyo Iman ブラコソ Prakoso	主査: 准教授 小林 真  Development of new methodology toward C-C bond formation with halogenated Weinreb amide for synthesis of halogenated natural product  (ハロゲン化された天然有機化合物の合成に向けた、ハロゲン化されたワインレブアミドを用いる新規炭素―炭素結合形成反応の開発)  主査: 准教授 梅澤 大樹
	シャルカー アピナッシュ Sarker Abinash チャンドロ Chandro	Electrocatalytic nitrate and nitrous oxide reduction reactions at trimetallic interfaces of Pt, Pd and Sn (白金、パラジウム、スズの三元金属界面における硝酸イオンおよび亜酸化窒素の電極触媒還元反応)
	<sup>なかむら</sup> たいち 中村 太一	主査:教授 八木 一三  Hf-Betaゼオライトの迅速合成および移動水素化反応に対する触媒作用の定量的理解  (A rapid synthesis of Hf-Beta zeolite and understanding its catalytic function for transfer hydrogenation)  主査: 准教授 大友 亮一
	ŴŰ JIABĬŇĞ	Development of multifunctional ferromagnets based on supramolecular structures and bimetallic oxalate complexes (超分子構造とシュウ酸金属錯体塩に基づいた多機能強磁性体の開拓) 主査:教授 中村 貴義
	WU F Z Z Z Z DONGFANG	Self-assembled structure and magnetism of lanthanoid multinuclear complexes with lacunary polyoxometalate ligands  (欠損型ポリオキソメタレート配位子を有するランタノイド多核錯体の自己組織化構造と磁性) 主査:教授 中村 貴義
	SOBHANAN Singer Jeladhara	Development of fluorescent molecules and nanobioconjugates for cell imaging and singlet oxygen sensing (細胞イメージングと一重項酸素センシングに向けた蛍光分子とナノバイオコンジュゲートの開発)
		主査:教授 BIJU VASUDEVAN PILLAI

	博士の学位を授与された者		
分野の名称	氏 名	- 	
博士(環境科学)	BHAGYASHREE  ¬ > + + + +	Studies of photoinduced electron transfer and exciton dynamics in halide perovskite films and single particles  (ハロゲン化物ペロブスカイト膜と単一粒子における光誘起電子移動と励起子ダイナミクスの研究)  主査:教授 BIJU VASUDEVAN PILLAI	
母工(必须任子)	YANG ZHUXI	Geometric and electrostatic effects of tectons on formation of hydrogen-bonded organic frameworks  (水素結合性有機フレームワークの形成におけるテクトンの幾何学的および静電的な影響) 主査:教授 中村 貴義	
博士(理学)	NGO DUĆ Ť4 * × × THIEN	Exploration of Functional Plasmonic Compounds and Microstructures for Spectroscopic Infrared Transducers  (分光型赤外線変換器のための機能性プラズモニック化合物およびマイクロ構造の探索的研究) 主査: 客員教授 長尾 忠昭	
	まうだい たかし 東岱 孝司	アズキ茎腐細菌病の病原細菌ならびに発生生態と防除に関する研究 主査: 教授 近藤 則夫	
	新子 泰規	ウイルス関連トマト遺伝子の変異による抵抗性遺伝資源開発に関する研究 主査: 教授 増田 税	
	オラエグブナム Oraegbunam チドズィー Chidozie ジョンソン Johnson	Understanding the dynamics of soil microbial communities and gas emissions under different soil amendments (異なる土壌改良資材施用が土壌微生物叢ダイナミクスとガス排出量に及ぼす影響評価) 主査:准教授 渡部 敏裕	
	ENGR G T A F R Md. Mahmudul 1354 Islam	安田・作教技 仮部 軟質 Synthesis of biochar-based slow-release fertilizer from nutrient-rich organic waste (栄養豊富な有機性廃棄物を原料とした緩効性バイオ炭肥料の合成) 主査:教授 岩渕 和則	
	ウィジッラバ Wijitrapha ルアンガラム Ruangaram	Mechanistic analysis of Thai medicinal plants on anti-obesogenic activity  (タイ薬用植物の抗肥満関連活性に関する作用機構解析)  主査:准教授 加藤 英介	
+ 1. (曲 쓰)	ゥドンソバギット Udomsopagit テラナート Teranart	Studies on the role of gut microbiota in the regulation of RegIII β and RegIII γ in murine intestine (マウス小腸のReg III β およびReg III γ の発現調節における腸内細菌叢の役割に関する研究) 主査:教授 園山 慶	
博士(農学)	コディスワック Kodithuwakku アラクチラグ Arachchilage ヘシャンクラカ Heshan Taraka コディスワック Kodithuwakku	Study on the effects of early fibrous diet feeding via oral administration on gastrointestinal environment in pre-weaned calves (繊維飼料の早期経口投与が哺乳子牛の胃腸内環境に及ぼす影響) 主査:教授 小池 聡	
	が *ž 黄 艳	Novel syntrophy driven by methylotrophic methanogens (メチル基利用メタン生成アーキアによる新規栄養共生) 主査: 客員准教授 加藤 創一郎	
	ファン ウェイホン 范 威宏	Study on the role of zona pellucida in pre- and post-implantation development of mouse embryos  (マウス胚の着床前後の発生における透明帯の役割に関する研究)  主査:教授 小池 聡	
	マシンプラ Masimbula ヴィダナラゲ Vidanalage リシュニ サミンディカ Rishni Samindika マシンプラ Masimbula	Isolation, structure determination, and chemical synthesis of acyl glucoses from <i>Solanum pennellii</i> and investigation of their biological activities ( <i>Solanum pennellii</i> 由来の新規アシルグルコースの単離、構造決定、化学合成、およびその生物活性の生物有機化学的研究)	
	TAR 巨	主査: 教授 松浦 英幸  CLT直交層におけるローリングシアーおよび北海道産CLTの面外せん断強度に関する研究 主査: 教授 佐々木 貴信	

博士の専攻	博士の学位を授与された者	·					
分野の名称	氏 名						
	SŪZŪMŪRĀ Ž " " " " - ĀLYSSA LEE	Taxonomic studies on Hydrophilidae and other coleoptera residing in temporally limited heterotrophic systems (腐敗・分解有機物環境に生息する甲虫類の分類学的研究) 主査:教授 大原 昌宏					
	程 学新	エ且・教授 八原 自然  Comprehensive understanding of the origin and function of the "female penis" in cave insects  (雌がペニスを持つ昆虫の交尾器の起源と機能の総合的理解)  主査:准教授 吉澤 和徳					
博士(農学)	יייי די	Application of remote sensing for characterization of windthrow and landslides at multiple scales in forest landscape  (マルチスケールでの風倒地・崩壊地の特性把握―森林景観におけるリモートセンシングの応用―)					
	Md. Imam  # # 4 2  Hossain	主査:准教授 森本 淳子  Influence of Dissolved Organic Matter on the analysis of a solution of anionic surfactant,  Dodecylbenzenesulfonate  (陰イオン界面活性剤ドデシルベンゼンスルホン酸溶液分析に及ぼす溶存有機物の影響)  主査:教授 石黒 宗秀					
	Yan LYU	Functions of wood cell wall polysaccharides on lignification <i>in vitro</i> ( <i>in vitro</i> の木化における木材細胞壁多糖類の機能) 主査:教授 浦木 康光					
	Lauretta	Wildlife responses to naturally altered and human-modified landscapes in Malaysia and Japan (マレーシアならびに日本の自然および人為的景観における野生動物の応答解析) 主査:教授 中村 太士					
	MOHAMAD  # 11 7 E > ZARIF BIN  A N 7 F X E M  MOHD ZUBIR	Exploration of Biomolecularly Transparent IR Region for Structural Identification of Biomolecules Using VCD  (生体分子の構造同定を目指した生体分子非吸収スペクトル領域におけるVCD研究) 主査:教授 門出 健次					
博士 (生命科学)	ディ デバャン DEY Debayan	Structural characterization of magnesium dechelatase and chlorophyllide <i>a</i> oxygenase involved in the chlorophyll metabolic pathway  (クロロフィル代謝系に含まれるマグネシウム脱離酵素とクロロフィリド <i>a</i> オキシゲナーゼの構造解析)					
		主査: 教授 田中 亮一					
	デン ソウ 田 聡	Molecular basis of lipid presenting and loading mechanisms of CD1b (CD1b の脂質抗原提示と脂質積込み機構の分子基盤) 主査:教授 前仲 勝実					
博士 (薬科学)	ナピーラ ムタッシム Nabila Mutassim ムラドァブド Murad Abdu	Molecular basis for ANGPTL2 recognition of LILRB2 immune checkpoint receptor (免疫チェックポイント受容体LILRB2に対するANGPTL2認識の分子基盤) 主査: 教授 前仲 勝実					
	*?**	主査: 教授 前仲 勝実 シスプラチンによる骨格筋萎縮発症機序に関する基礎的研究 主査: 教授 南 雅文					
	(禁水・ゆうじ 熊谷 祐二	Study on molecular mechanisms and morphological characteristics of collective cancer cell invasion  (がん細胞の集団浸潤における分子機構と形態学的特徴に関する研究)  主査:教授 芳賀 永					
博士(ソフトマター科学)	<sup>ワン チージェン</sup> 王 志健	Study on mechanoradical generation and application in azo-crosslinked double network hydrogels  (アゾ架橋ダブルネットワークゲルにおけるメカノラジカルの発生と応用に関する研究) 主査: 教授 襲 剣萍					
	ンパ ジョシュア Mba Joshua チディエベレ Chidiebere	Development of thermo-responsive gold nanodiscs for a novel plasmonic photothermal cancer therapy  (プラズモンの光熱変換機能を利用した新奇ガン治療を可能にする温度応答性ディスク状金ナ					
		ノ粒子の開発)   主査:教授   居城   邦治					

博士の専攻	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名		
分野の名称	氏 名	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
	むらい ふみか	日本の現代青年における自己の仮面性に関する検討―「キャラ」を介した友人関係による不適		
博士 (教育学)	村井 逆香	応過程に着目して一		
		主査:准教授 加藤 弘通		
	to	協働的対話における学習者の母語使用とその役割-社会文化理論とバイリンガル・アプローチ		
博士 (学術)	四升   愛丁	の視点から - 主査: 教授 河合 靖		
母工 (子加)	レスナ レーホき	イメージの〈出現〉と「私」の変容——大学における絵画・現代美術の制作指導の試み——		
	富田俊明	主査:准教授 増田 哲子		
	なんち のぶあき 南地 伸昭	巡礼ツーリズムの経験価値 - 西国三十三所および四国八十八ヶ所巡礼を事例として -		
博士(観光学)		主査: 教授 西川 克之		
		ウェアラブルセンサを用いた3次元歩行解析システムによるロコモティブシンドローム症例に		
	まいとう ゆうき 齋藤 優輝	おける歩行特性に関する研究		
博士 (保健科学)	7/11/14	主査: 准教授 寒川 美奈		
	たにぐち しょうへい 谷口 翔平	体幹姿勢の前額面における変化が着地動作における下肢関節バイオメカニクスに与える効果の		
	合口 翔平 	性差の検討 主査: 准教授 寒川 美奈		
	111 414 11 22	工重・低数を		
	石川俊也	主査:教授 明楽 浩史		
	あらしま ひろのぶ	高強度低合金鋼の高圧水素ガス中における脆化挙動に関する研究		
	売島 裕信	主査:教授の橋本の直幸		
		Study on performance improvement of low working temperature phase change material		
	董凱於	(低温作動相変化材料の性能改善に関する研究)		
		主査: 准教授 能村 貴宏		
	原島 亜弥	Ni含有鋼に形成する水蒸気酸化スケールの組織形成とその変化に及ぼす要因		
		主査:教授 林 重成		
		Facile Fabrication of Various Titanium Oxide Particles for the Visible Light Photocatalytic		
	YU Zhehan	Application (可視光光触媒用途のための様々な酸化チタン粒子の容易な製造)		
		主査:教授 渡辺 精一		
		Gold Nanoparticles as Injectable and Minimally Invasive Markers for Real-Time Image		
	リウ ハオラン	Guided Radiation Therapy		
	LIU Haoran	(画像誘導放射線治療用の注射可能な低侵襲金ナノ粒子マーカー)		
		主査: 教授 米澤 徹		
博士 (工学)		Sign Language Translation Using Wearable Motion Capture System and Machine Learning		
	グー ユートン Gu Yutong	Methods		
		(装着型運動計測システムと機械学習による手話翻訳手法に関する研究)		
		主査: 教授 東藤 正浩  Study of mechanical properties and cyclic stretching-induced remodeling of cellular primary		
	ドゥ テイエン ヅ ン	cilia		
	ドゥ ティエン ヅ ン DO Tien Dung	(細胞一次繊毛の力学特性と繰り返し引張刺激に伴うリモデリングに関する研究)		
		主査:教授 大橋 俊朗		
		Proposal of a Segmentation Algorithm using Multi-Sensor Fusion for Autonomous Driving in		
	VÁ ĆHM ÁNÚS	Snowy Environments		
	SIRAWICH	(積雪環境における自律走行を目的としたマルチセンサフュージョンによるセグメンテーショ		
	Olicitwich	ンアルゴリズムの提案)		
		主査:准教授 江丸 貴紀		
	ふな い たかし	生体力学シミュレーションによる体内応力予測値を基準とした腰痛予防のための個別対応マッ		
	船井 孝	トレス設計に関する研究 主査: 教授 東藤 正浩		
		主 全 · 教授 · 束膝 · 正语 Study on Behaviors of Gas-Liquid Two-Phase Flow in Slope Conditions		
	YOON Dongik	(傾斜環境における気液二相流の挙動に関する研究)		
		主査:教授 村井 祐一		

博士の専攻	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
分野の名称	氏 名	
	まじぃ ゆうすけ 藤井 祐介	スポットスキャニング陽子線治療におけるMRI 誘導の適用に関する研究
	MA 71 PH 71	主査:准教授 松浦 妙子
	ウー ユーウェイ	Effect verification of wicking fabric on inhibition to frost heave at cold region pavement
	WU Yuwei	(寒冷地舗装の凍上抑制に対するウィッキングファブリックの効果検証)
		主査:教授 石川 達也
	田方 俊輔	高波浪時における海岸堤防前面の三次元的な地形変化に関する研究   主査:教授 泉 典洋
	タンボゥラ	Bearing capacity evaluation of various types of foundations subjected to combined load in
	TAMBOURA	layered grounds considering nonlinearity of strength against confining pressure
	(拘束圧に対する強度非線形性を考慮した、複合荷重を受ける層状地盤上の基礎の支持力評価)	
	HAMADOUM	主査: 准教授 磯部 公一
	5 - 0	Effects of freeze-thaw of ballasted track on railway train vibration in cold regions and its
	ZHANG	evaluation
	Shoulong	(凍結融解が有道床軌道の軌道狂いと車体動揺に及ぼす影響とその評価に関する研究)
		主査:教授 石川 達也
		EXPERIMENTAL STUDY ON POLYMER CEMENT MORTAR (PCM) WITH SILICA
	Mahmudul	FUME TO ENHANCE CONCRETE-PCM INTERFACE BOND
	Hasan Mizan	(シリカフュームを混入したポリマーセメントモルタル(PCM)によるコンクリート-PCM界
		面接着性状改善効果に関する実験的研究)   主査:准教授 松本 浩嗣
博士(工学)		Seismic response control of coupled structures using passive negative stiffness connection
母工 (工士)	Sonia Longjam	(パッシブ負剛性接続を使用した連結構造物の地震応答制御)
		主査:准教授 白井 和貴
		Study on the Performance Enhancement of the Adsorption Heat Pump applied Natural Meso-
	賀方	porous Material
	貝 <i>八</i>	(天然メソポーラス材料を用いた吸着式ヒートポンプの性能向上に関する研究)
		主査: 教授 長野 克則
		Application of submicron super-fine powdered activated carbon on mitigating membrane
	ZHAO Yuanjun	fouling in microfiltration systems
		(精密ろ過における膜ファウリング抑制へのサブミクロン超微粉砕活性炭の応用)
	<b>1</b>	主査: 教授 松井 佳彦 核酸を用いた環境水中のヒ素およびレジオネラ属細菌の検出に関する研究
	松永 光司	1次版を用いた環境が中のと素およりレンタボク病細菌の原山に関する前先   主査:教授 佐藤 久
	ピラル	Development of Carrier-Flotation Technique for Finely Ground Copper Sulfides
	BILAL	(微粒硫化銅鉱のキャリア浮選法の開発)
	Muhammad	主査:教授 伊藤 真由美
		The extent of pollution and bioaccessibility of lead and zinc from a legacy mine in Kabwe,
	MUFALO	Zambia, and immobilization of toxic elements by half-burnt dolomite
	Walubita	(ザンビアカブウェ鉱山の鉛、亜鉛による汚染、バイオアクセシビリティと半焼成ドロマイト
	, varabita	による不溶化)
		主査:准教授 原田 周作
		Study on Stimuli-Responsive Quinodimethane Derivatives with Controllable Photophysical
	すがわら かず ま 菅原 一真	Properties
		(光物理的特性の制御が可能な刺激応答性キノジメタン誘導体に関する研究)     主査:教授 澤村 正也
	** O P # 4 *	糸状菌由来の代表的な天然物群生合成における未解決課題の解明に関する研究
博士 (理学)	龍野 純矢	主査:教授 永木 愛一郎
		Protection Strategies for Catalytic Conversion of Biomass-derived Furanics to Monomers for
	TAT	Polyamides
	BOONYAKARN	(保護基活用戦略に基づくバイオマス由来フラン化合物からポリアミド原料への触媒変換)
		主査:教授 長谷川 淳也

博士の専攻	博士の学位を授与された者	横 土 ⊷ 々
分野の名称	氏 名	·
	ピシャル クマル Vishal Kumar ラワット Rawat	Studies on Cooperative Organometallic Catalysis for Organic Synthesis (有機合成への応用を指向する協働作用触媒に関する研究)
		主査:教授 鈴木 孝紀
博士 (理学)		Surface/Interface Engineering of Si-based Photocathodes for Efficient Photoelectrochemica
	李思杰	Hydrogen Production (表面/界面制御によるシリコン系光電極の効率的な光電気化学水素生成に関する研究) 主査:教授 村越 敬
		A Study of Anode Functional Layer for Protonic Solid Oxide Electrolysis Cells
	タン チュンメイ 唐 春梅	(プロトン固体酸化物電解セルに対するアノード機能層の研究)
		主査:教授 忠永 清治
		Material Development of Mixed Conducting Electrodes for Protonic Solid Oxide Electrolysi
掛上 (丁兴)	とりうみ はじめ 白 流 会日	Cells
博士(工学)	鳥海 創	(プロトン固体酸化物水蒸気電解セルに用いる混合伝導性電極の材料開発)
		主査: 教授 忠永 清治
	±0 4	On-chip Preparation of Size-controlled PLGA Nanoparticles for Drug Delivery
	包怡	(薬物送達のためのサイズ制御されたPLGAナノ粒子のオンチップ調製)
		主査: 教授 佐藤 敏文
		免疫チェックポイント阻害剤の単剤投与に関連する肝炎の頻度・臨床経過・予測因子に関する
	きたがた や たかし	研究
	北潟谷隆	(Studies on prevalence, clinical course, and predictive factors of immune checkpoint inhibitors)
		monotherapy-associated hepatitis)
		主査:教授 平野 聡
		EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌におけるosimertinib耐性とNotch経路の関わりに関する
	たかはし ひろふみ	究 (Co. I. N. A.
	髙橋 宏典	(Studies on Notch pathway regulates osimertinib drug-tolerant persistence in EGFR-mutate
		non-small cell lung cancer)
		主査:教授 松野 吉宏  T-cell dependent reactive granulopoiesis is associated with neutropenia-induced alteration of
		gut microbiota
	東炫仲	gut inicronota (好中球減少時のT細胞依存性反応性顆粒球造血は, 好中球減少によって変化した腸内細菌道
	PA AATT	によって促進される)
		主査:教授 橋野 聡
博士 (医学)		新規敗血症モデルの開発に関する研究
	つきだ なく A 土田 拓見	(Research on the development of a new sepsis model)
	1	
		Study on the regulatory function of Annexin A1 (AnxA1) in pathological bone resorption an
		its therapeutic implications in periprosthetic osteolysis
	<sup>てるかわ</sup> 照川 ヘンド	(アネキシンA1 (AnxA1) の病的骨吸収制御メカニズム及び人工関節周囲骨吸収における?
		療効果に関する研究)
		主査:准教授 外丸 詩野
		日本の覚醒剤使用障害患者の特性
	山本 泰輔	(Characteristics of Patients with Methamphetamine Use Disorder in Japan)
		主査:教授 藤村 幹
		肝外胆管癌のリンパ節転移細胞の分子生物学的特徴の解析
	やまだ とおる	肝外胆管癌のリンパ節転移細胞の分子生物学的特徴の解析 (The analysis of molecular biological characteristics of cells metastasized to lymph nod
	やまだとおる山田 徹	
		(The analysis of molecular biological characteristics of cells metastasized to lymph nod
		(The analysis of molecular biological characteristics of cells metastasized to lymph nod from extrahepatic cholangiocarcinoma)  主査:教授 武富 紹信
	山田徹	(The analysis of molecular biological characteristics of cells metastasized to lymph nod from extrahepatic cholangiocarcinoma)
博士(獣医学)		(The analysis of molecular biological characteristics of cells metastasized to lymph nod from extrahepatic cholangiocarcinoma)  主査:教授 武富 紹信  Effects of milk osteopontin on the normalization of endometrial epidermal growth factors

博士の専攻	博士の学位を授与された者						
分野の名称	氏 名	- 					
博士 (獣医学)	まだか たいし 大高 大志	Analysis of transcriptional regulation in <i>Toxoplasma gondii</i> sporozoites (トキソプラズマ原虫スポロゾイトにおける転写制御機構の解析)					
I-b I ( ) \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	SEKTURSUNOV	主査:教授 野中 成晃  Building of "Nomadic Socialism": State and Society in the Making of Soviet Kyrgyzstan					
博士(学術)	ミルラン Mirlan	(「遊牧民的社会主義」の建設:ソヴィエト・クルグズスタンの形成における国家と社会) 主査:教授 宇山 智彦					
博士(文学)	朱偉	王兵作品研究 主査:教授 応 雄					
	都賢娥	日本語の対称表現の社会語用論的研究 主査: 教授 加藤 重広					
博士(工学)	jāldl lookfit 上橋 俊介	Study on Under-determined Problem for Wireless Communication Systems (無線通信システムにおける劣決定問題に関する研究) 主査:教授 大鐘 武雄					
博士 (情報科学)	GALBRAITH  ***********************************	Whispers in Murky Waters: Bacterioplankton Interaction Networks Underpinning Ecosystem Health (澱んだ水の中のささやき:生態系の健全性を支えるバクテリアプランクトンの相互作用ネットワーク)					
好工(旧代刊子)	all and it	主査: 教授 大鐘 武雄 超音波生体作用研究用照射容器の内部音場の可視化と制御に関する研究					
博士(工学)	** o O O O O O O O O O O O O O O O O O O	主査: 准教授 工藤 信樹 画像検査を志向した関心パタンの探索順序戦略の立案およびその効率的活用に関する研究 主査: 教授 田中 孝之					

### 論文博士

博士の専攻	博士の学位を授与された者	
分野の名称	氏 名	博 士 論 文 名 
		Statistical analysis on the effect of precipitation on the variability of extreme sea levels along
	Islam Mohammad	the coast of Bangladesh
	Anowarul	(バングラデシュ沿岸域における極端な高水位の変動をもたらす降水の効果に関する統計解析)
		主査: 准教授 佐藤 友徳
博士 (環境科学)		原子力施設で発生する廃液の処理を目指した均一系および不均一系触媒反応による水中アンモ
	# 1) I+C	ニウムイオンのオゾン酸化
	粟飯原 はるか	(Catalytic ozonation of ammonium ions in water with homogeneous and heterogeneous
		catalysts towards treatment of liquid waste generated in nuclear facilities)
		主査: 教授 神谷 裕一
		Discovery of bacteria producing a novel cycloisomaltotetraose and identification of novel
	ふじた あきひろ	enzymes involved in cycloisomaltotetraose prodciton and metabolism pathway
博士 (農学)	藤田 章弘	(新規シクロイソマルトテトラオースを生産する微生物の発見とシクロイソマルトテトラオー
		ス生成・代謝経路に関与する新規酵素の同定)
		主査: 教授 森 春英
博士 (教育学)	大澤真平	子どもの貧困の経験
10 12 (9)(1)	XIII XI	主査: 教授 松本 伊智朗
博士 (観光学)	小林 裕和	地域における旅行サービスビジネスの役割に関する包括的理解とその枠組みについて
10 11 (1910) 11 /	7 11 1816	主査: 教授 西山 徳明
	さいとう ほそたに	Study on the pathogenesis of oocyte pick-up dysfunction of oviduct in autoimmune disease-
	齋藤(細谷)	prone model mouse
	実单奈	(自己免疫疾患モデルマウスにおける卵管ピックアップ障害の病態発生に関する研究)
博士 (獣医学)		主査: 教授 昆 泰寛
		Studies on the Molecular Pathogenesis and the Novel Disease-Associated Genes in Dogs with
	ながた のりゆき 永田 矩之	Inflammatory Colorectal Polyps
	7,1	(犬の炎症性結直腸ポリープの分子病態および新規疾患関連遺伝子に関する研究)
		主査: 教授 滝口 満喜
博士 (文学)	ましもと やまい 吉本 弥生	武者小路実篤における〈生長〉の研究
		主査: 教授 中村 三春

# ■告示

# 告 示

北海道大学告示第1号

北海道大学共同利用施設等管理規程(昭和38年海大達第3号)第2条の規定に基づき、共同利用施設等「量子干渉 方式広温度領域磁化測定研究室」の指定を解除する。

令和4年9月30日(金)

北海道大学総長 寳 金 清 博

### **■レクリエーション**

# 2022年度 第52回 札幌社会人サッカーリーグに出場

5月15日(日)から8月28日(日)の日程で、北大教職員サッカークラブは札幌社会人サッカーリーグに出場しました。 最上位のSリーグから新規加入チームによるライラックリーグまで、全8部・70チームで構成されたリーグ戦で、北大教 職員サッカークラブはAリーグ5部に所属し、6勝3敗の4位で全日程を終えました。対戦成績は以下のとおりです。

また、教職員サッカークラブは夏場のサッカーだけでなく、11~3月にかけては屋内でフットサルの活動もしており、札 幌フットサルリーグにも参加しております。

サッカーやフットサルの活動の詳細は、ホームページからご確認いただけます。興味のある方は、お近くの部員かホーム ページの問い合わせ先までご連絡ください。

北大教職員サッカークラブHP: http://hokudaikyousyokuinsc.web.fc2.com

(教職員サッカークラブ)

5月15日 教職員サッカークラブ 3-0 HOKKAIDOBANK FC

5月29日 教職員サッカークラブ 1-0 薄野倶楽部

6月12日 教職員サッカークラブ 0-1 ノードFC

6月19日 教職員サッカークラブ 8-0 FC Turtoise sapporo

7月 3日 教職員サッカークラブ 11-0 北星四十雀

7月17日 教職員サッカークラブ 3-0 北海道新聞社サッカー部

7月31日 教職員サッカークラブ 5-0 FC大将

8月 7日 教職員サッカークラブ 1-2 LIETO札幌

8月28日 教職員サッカークラブ 0-2 S.B.F



集合写真

# ■表敬訪問

### 海外

年月日	来 訪 者	来訪目的
4.9.5	カセサート大学(タイ王国) Chongrak Wachrinrat 学長	今後の交流に関する懇談
4.9.13	JICA 井本 佐智子 理事	今後の交流に関する懇談
4.9.21	駐日ドイツ連邦共和国大使館 Clemens von Goetze 特命全権大使	今後の交流に関する懇談
4.9.27	駐日フランス大使館 Didier Marty-Dessus 科学技術参事官	今後の交流に関する懇談



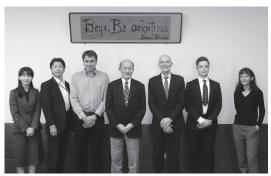
Chongrak Wachrinrat カセサート大学学長(中央)



井本 佐智子 JICA理事(左)



Clemens von Goetze 駐日ドイツ連邦共和国特命全権大使(中央右)



Didier Marty-Dessus 駐日フランス大使館科学技術参事官 (右から3人目)

(国際部国際連携課)

# ▮人事

### 令和4年9月7日付発令

新職名(発令事項)	氏	名	旧職名(現職名)
【副理事】 副理事	土屋	努	産学・地域協働推進機構・特任教授
(期間:令和5年3月31日まで)			

### 令和4年9月20日付発令

新 職 名(発令事項)	氏	名	旧職名(現職名)
【教授】			
(辞職)	大 本	亨	大学院理学研究院教授

### 令和4年10月1日付発令

新職名(発令事項)	B	ŧ	3	名	旧 職 名(現職名)
【部局長・施設長等】					
社会科学実験研究センター長	大	沼		進	大学院文学研究院教授
(期間:令和6年9月30日まで)					
学生相談総合センター長	安	達		潤	大学院教育学研究院教授
(期間:令和6年9月30日まで)					
大学院理学研究院附属ゲノムダイナミクス研究センター長	小	Ш	宏	人	大学院理学研究院教授
(期間:令和6年9月30日まで)					
創成研究機構ワクチン研究開発拠点長	澤		洋	文	人獸共通感染症国際共同研究所教授
(期間: 令和6年3月31日まで)					
【教授】					
大学院法学研究科教授	池	田		悠	大学院法学研究科准教授
大学院法学研究科教授	佐	藤	修	二	(採用)
大学院水産科学研究院教授	福	田		覚	弘前大学准教授
大学院理学研究院教授	井。	ノロ	順	-	筑波大学教授
大学院理学研究院教授	沼	田	泰	英	信州大学准教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院教授	岡	本	亮	輔	大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院教授	金	Щ		準	大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
大学院工学研究院教授	宮	森	保	紀	北見工業大学教授
電子科学研究所教授	永	井	健	治	大阪大学教授
					(大阪大学を本籍機関としてクロスアポイントメント適用)
スラブ・ユーラシア研究センター教授	服	部	倫	卓	(採用)
【課長・事務長・室長】					
研究推進部研究支援課ワクチン研究開発拠点事務室長	柳	橋	光	人	研究推進部研究振興企画課課長補佐

#### 役員新体制紹介

#### 令和4年9月7日付



#### 副理事に

土屋 努 特任教授

副理事として土屋努特任教授が発令されました。 任期は、令和5年5月31日までです。

#### 略歴

生 年 月 日 昭和35年5月5日

昭和54年 3月 北海道大学法学部卒業

昭和59年 4月 株式会社安田信託銀行

(本店外国営業部 他海外支店・国内支店等)

平成 8年 4月 株式会社セラフ 代表取締役CEO

平成28年 7月 株式会社セラフ 取締役会長

平成31年 4月 1日 北海道大学工学部 ITプロトタイプ研究部門

令和 2年 1月 1日 北海道大学工学部 ITプロトタイプ研究部門客員教授

令和 2年12月 1日 北海道大学 産学·地域協働推進機構 特任教授

令和 3年 7月 1日 北海道大学 産学・地域協働推進機構

特任教授(兼)スタートアップ創出部門長

#### 新任部局長等紹介

#### 令和4年10月1日付

#### 創成研究機構ワクチン研究開発拠点長に



#### 澤 洋文 教授

令和4年10月1日付けで創成研究機構 ワクチン研究開発拠点が設置され、拠 点長として澤洋文教授が発令されまし た。

任期は、令和6年3月31日までです。

#### 略歴

生 年 月 日 昭和35年11月 3日 昭和61年 3月 北海道大学医学部卒業 平成 2年 3月 北海道大学大学院医学研究科博士課程修了 平成 2年 3月 博士 (医学) (北海道大学) 平成 2年 4月 市立札幌病院嘱託医師 平成 3年 7月 平成 6年 3月 米国ワシントン大学医学部 博士研究員 平成 9年 4月 北海道大学医学部 講師 平成11年 4月 北海道大学医学部 助教授 平成12年 4月 北海道大学大学院医学研究科 助教授 平成17年 4月 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 教授 平成19年 4月 ザンビア国立ザンビア大学獣医学部 客員教授 平成26年 4月 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 教授 及び北海道大学国際連携研究教育局 教授 平成22年 4月 令和 3年 3月 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 副センター長 平成29年 4月 北海道大学国際連研究教育局 令和 2年 3月 人獣共通感染症グローバルステーション長 令和 3年 3月 北海道大学One Health Research Center センター長 令和 3年 4月 北海道大学人獸共通感染症国際共同研究所 教授

#### 新任部課長等紹介

#### 令和4年10月1日付



研究推進部研究支援課 ワクチン研究開発拠点事務室長に

北海道大学人獸共通感染症国際共同研究所 副所長

栁橋 光人 氏

昭和45年 5月生

平成 7年 3月 北海道大学

平成18年 4月 北海道大学函館キャンパス事務部船舶係長

平成21年 4月 北海道大学病院医事課係長 平成24年 4月 北海道大学財務部調達課係長

平成28年10月 北海道大学研究推進部研究支援課課長補佐 令和元年 7月 北海道大学研究推進部研究振興企画課課長補佐 令和 4年10月 北海道大学研究推進部研究支援課ワクチン研究開発拠点事務室長

#### 新任教授紹介

#### 令和4年10月1日付



法学研究科教授に

vit だ **池田** がきし 氏

法律実務専攻民事法講座

### 最終学歴

東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻専門職学位課程修了(平成19年3月) 法務博士(専門職)(東京大学)

専門分野 労働法



法学研究科教授に

きょう しゅうじ **佐藤 修二** 氏

法学政治学専攻現代法講座

生年月日

昭和48年9月20日

最終学歴

東京大学法学部卒業(平成9年3月)

専門分野

租税法



水産科学研究院教授に

覚 福田 氏

理学研究院教授に

沼田 泰英

数学部門数学分野

氏

地域水産業共創センター



理学研究院教授に

井ブロ 順一 氏

生物科学部門多様性生物学分野

#### 最終学歴

北海道大学大学院水産科学研究科博士課程修了(平成15年3月) 博士(水産科学) (北海道大学)

専門分野 水産植物



東京都立大学大学院理学研究科博士課程単位修得退学(平成9年3月) 博士(理学) (東京都立大学)

専門分野

幾何学



メディア・コミュニケーション研究院教授に

岡本 亮輔 氏

メディア・コミュニケーション部門 国際地域文化論分野

#### 生年月日

昭和54年7月26日

北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了(平成19年3月) 博士(理学) (北海道大学)

#### 専門分野

数え上げ組合せ論

### 最終学歴

筑波大学 大学院人文社会科学研究科哲学·思想専攻 修了(平成22年3月) 博士(文学)(筑波大学)

#### 専門分野

宗教学・観光学



メディア・コミュニケーション研究院教授に

準 氏 金山

メディア・コミュニケーション部門 公共伝達論分野

生年月日 昭和52年4月25日

#### 最終学歴

東京大学 大学院総合文化研究科国際社会科学専攻 博士課程修了(平成23年1月) 博士(学術) (東京大学)

#### 専門分野

社会思想史



工学研究院教授に

宮森 保紀 氏

土木工学部門 先端社会システム分野

生年月日 昭和50年11月15日

#### 最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了(平成15年3月) 博士(工学)(北海道大学)

#### 専門分野

構造工学、地震工学、構造動力学



電子科学研究所教授に

#### 永井 健治 氏

連携研究部門 拠点アライアンス連携研究分野

生年月日 昭和43年9月29日

#### 最終学歴

東京大学大学院医学系研究科博士課程修了(平成10年3月) 博士(医学) (東京大学)

#### 専門分野

ライフサイエンス、生物物理学、 バイオイメージング、発光生物工学



スラブ・ユーラシア研究センター教授に

### 服部 倫卓 氏

ロシア部門

生年月日 昭和39年9月19日

#### 最終学歴

北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了(平成29年12月) 博士(学術) (北海道大学)

#### 専門分野

ロシア経済研究

### ■訃報

### 教授 伊達 広行 氏

(享年63歳)



教授 伊達広行 先生は令和4年8月 7日にご逝去されました。

伊達先生は昭和35年7月14日に北海 道に生まれ、昭和58年3月北海道大学 工学部電気工学科卒業、昭和60年3月 同大学大学院工学研究科修士課程電気 工学専攻を修了、昭和62年6月同専攻 博士課程を中退され、学位は工学修士 及び博士(工学)が北海道大学から授 与されました。

その後、同年7月同大学医療技術短 期大学部助手に任用され、平成11年4 月同学部助教授に昇任及び成15年4月 同学部教授に昇任された上、同年10月 同大学医学部教授に転任され、平成20 年4月同大学大学院保健科学研究院教 授に配置換されました。

この間、平成7年5月から翌年3月ま で米国カリフォルニア大学バークレー 校化学工学科在外研究員として、平成 14年2月から3月まで米国スタンフォー ド大学線形加速器センター在外研究員 として研究に従事され、習得された確 かな研究力をもって教育・研究・医療 の充実に向け大きく貢献しました。

教育においては、情報処理実習、基 礎工学実験Ⅰ・Ⅱ、放射線診療機器学 実習I、医用画像情報学実験、放射線 計測学実験、放射線計測学Ⅰ・Ⅱ、医 用電子工学Ⅰ・Ⅱ、放射線物理学Ⅰ・ Ⅱ、放射線物理学基礎を担当されまし た。常に学生にとってどうあるべきか を第一に考え、教育者としての揺るぎ ない信念をもって、教育業務に従事し ました。また、大学院生を指導され、 社会で活躍できる優秀な卒業生や修了

生を多数輩出しました。

部局内においては、北海道大学大学 院保健科学研究院長を3期にわたり歴 任され、部局構成員からの信頼も厚 く、また人望もあり、令和4年度研究 院長にも選出され、4期目を担当して いるところでした。在任中には、諸外 国の大学にも自ら出向き、部局間協定 も精力的に多数締結し、国際共同研究 及び学生交流の基盤を構築しました。 また、教員人事の透明化、研究活動を 活発化させるための環境整備、若手人 材の登用と育成に注力していました。 これらの取組は、大学院保健科学研究 院の研究論文の飛躍的な増加と修士課 程及び博士後期課程学生の志願者増加 に繋がったと考えられます。

伊達先生の長年に亘るご功績に敬意 を表し、多大なるご貢献に感謝申し上 げ、謹んでご冥福をお祈り致します。

(保健科学研究院)

### 鈴木 志穂 氏

(享年46歳)



歯学研究院助教の 鈴木志穂 先生 が令和4年8月27日(土)にご逝去され ました。ここに生前のご功績を偲び、 謹んで哀悼の意を表します。

鈴木先生は、平成10年に東京農業大 学を卒業後、同大学院博士前期課程に 進学、修士(農学)の学位を取得され ました。修了後は民間企業に入社され

ましたが、研究への情熱から、東京大 学大学院新領域創成科学研究科の先端 生命科学専攻博士課程に進学され、博 士(生命科学)の学位を取得、同医科 学研究所の細菌感染分野で日本学術振 興会の特別研究員となり、病原細菌の 感染メカニズムを研究されました。そ の後アメリカ・ミシガン大学医学部に 留学し、赤痢菌によるインフラマソー ム活性化メカニズムについての論文が PNASに掲載されるなど充実した留学 生活を送られました。帰国後は東京大 学医科学研究所の特任助教、東京医科 歯科大学大学院医歯学総合研究科・細 菌感染制御学分野の助教を歴任され、 令和3年11月より本研究院・口腔分子 微生物学教室の助教に着任されまし

着任後は研究室のスタッフが少ない 中、大学院生への研究の指導だけでな

く学部生への細菌学の講義や実習、ま た学会誌の編集作業など多くの仕事を 任されておりました。多岐にわたる仕 事をこなすなかで、研究面においては 歯周病原細菌によるインフラマソーム 活性化のメカニズムについて、今後さ らに細かく研究しようとしていたとこ ろ、46歳という若さで現職のままご逝 去されたことはさぞかしご無念であっ たものと拝察いたします。穏やかな人 柄で皆に慕われておりましたので、こ のような形でお別れするのは非常に残 念です。

短い間ではありましたが、鈴木先生 の多大なるご貢献にあらためて感謝す るとともに、ここに謹んで心よりご冥 福をお祈り申し上げます。

(歯学院・歯学研究院・歯学部)

### 名誉教授 山崎 勇夫 氏 (享年97歳)



名誉教授 山崎勇夫 先生は、令和 4年8月19日にご逝去されました。ここ に生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の 意を表します。

山崎先生は、大正13年9月1日北海道 小樽市に生まれ、本学理学部化学科に 進学しましたが、戦後在学中の昭和20

年7月にサハリンに抑留され、約2年間 の帰学不能期間を経て昭和24年3月に 卒業、昭和29年3月に同大学院化学専 攻修士課程を修了、同年4月理学部助 手に採用されました。昭和33年5月に 理学博士号を取得し、昭和33年10月に 東北大学助教授、2年間のアメリカ・ オレゴン大学留学を経て、昭和36年7 月に本学応用電気研究所を併任、昭和 37年7月に応用電気研究所教授に昇任 されました。

昭和57年4月から昭和60年3月まで応 用電気研究所長を務められ、この間、 評議員として大学運営の枢機に参画 し、本学の発展に尽力され、教育行政 上多大な功績を残されました。昭和63 年3月に定年でご退職され、本学退官 後は昭和63年から平成3年までアメリ カ・ユタ州立大学客員教授を務められ ました。

先生は、34年にわたって本学に奉職 し、特に大学院教育において専攻分野 の技術者・研究者の育成に励まれ、教 養部及び理学部の学生の教育指導にも 嘱されて力を尽くされました。

研究面では一貫して生化学・分子生 物学の研究にとりくまれ、学術の発展 に多大な貢献をされました。主として 酵素に関する反応論の研究を進め、特 にESR (電子スピン共鳴) を用いたペ ルオキシターゼを中心とした酵素の反 応機構の解明において大きな研究成果 を挙げられました。

先生の長年に亘るご功績に敬意を表 し、多大なるご貢献に感謝申し上げ、 謹んでご冥福をお祈りいたします。

(電子科学研究所)

#### 編集メモ

●9月28日 (水)、すっかり秋めいた創成研究機構からキャ ンパスを南下していくと、建設中のICReDD棟(北キャ ンパス総合研究棟8号館)の姿が見えました。これは、 文部科学省が実施する「世界トップレベル研究拠点プロ グラム (WPI)」として、2018年10月に本学に設置され た研究拠点「化学反応創成研究拠点 (WPI-ICReDD)」 のための新たな研究棟です。従来施設の50%以上の省工 ネルギー化を実現する建築物ということで、来春の完成 が今から待ち遠しいですね。



創成研究機構前

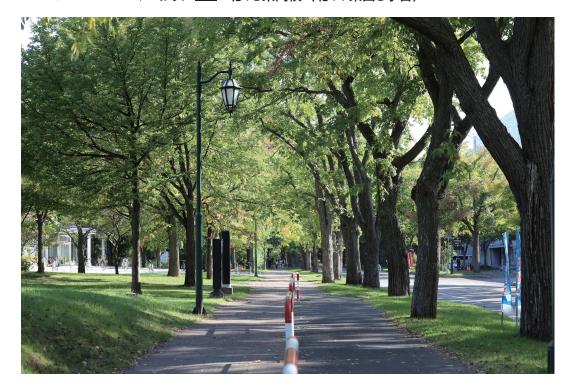


建設中のICReDD棟

#### 裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は北18条門横です。北18条門は、教養教育が行われる高等教育推進機構に最も近い出入り口。講義 の合間には、自転車に乗った学生が風を起こして門を駆け抜けていきます。いつも慌ただしい場所ですが、時間によって は人気が無くなることも。季節も相まって、どこか物悲しさを感じさせます。

# キャンパス風景 31 北18条門横 (北17条西8丁目)



北海道大学社会共創部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

 $\mathtt{TEL} : (011) \ \ 706 - 2610 \ / \ \mathtt{FAX} : (011) \ \ 706 - 2092 \ / \ \mathtt{E-mail} : \\ \mathtt{kouhou@jimu.hokudai.ac.jp}$ 

https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html